

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント

○調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる

(2) 調査の対象学年

小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

中学校第 3 学年，中等教育学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査の内容

①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語 A，算数・数学 A]	主として「活用」に関する問題 [国語 B，算数・数学 B]
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 <p style="text-align: right;">など</p>

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日時

平成 21 年 4 月 21 日（火）

(5) 4 月 21 日に調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】

	対象学校数	学校数（実施率）	児童数
公立学校	21,527校	21,482校（99.8%）	1,137,844人
国立学校	76校	76校（100.0%）	7,539人
私立学校	197校	85校（43.1%）	4,714人
合計	21,800校	21,643校（99.3%）	1,150,097人

【中学校調査】

	対象学校数	学校数（実施率）	生徒数
公立学校	10,171校	9,851校（96.9%）	1,033,909人
国立学校	81校	77校（95.1%）	10,466人
私立学校	708校	330校（46.6%）	33,597人
合計	10,960校	10,258校（93.6%）	1,077,972人

○教科に関する調査

○正答の状況

- 教科に関する調査の平均正答数・正答率は次のとおり。

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	12.6問 ／18問	5.1問 ／10問	14.2問 ／18問	7.7問 ／14問	25.6問 ／33問	8.3問 ／11問	20.9問 ／33問	8.6問 ／15問
平均 正答率	70.1%	50.7%	78.8%	55.0%	77.4%	75.0%	63.4%	57.6%

- 21年度調査と20年度調査との平均正答率による単純な比較はできないが、20年度と比べ、ほとんどの教科で平均正答率が高くなっている。

【参考】20年度調査

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	11.8問 ／18問	6.1問 ／12問	13.7問 ／19問	6.7問 ／13問	25.2問 ／34問	6.2問 ／10問	23.0問 ／36問	7.5問 ／15問
平均 正答率	65.6%	50.7%	72.3%	51.8%	74.1%	61.6%	63.9%	50.0%

○過去の調査問題と同一問題の正答率の比較

- 小学校調査においては、過去の調査との同一問題11問（国語6，算数5）のうち、3問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、7問は今回の方が高く、1問は低くなっている。
- 中学校調査においては、過去の調査との同一問題16問（国語10，数学6）のうち、8問は過去の正答率と比べて大きな差はなく、4問は今回の方が高く、4問は低くなっている。

		過去の調査と比べて3ポイント以上高い問題の数	過去の正答率の前後3ポイント未満の範囲にある問題の数	過去の調査と比べて3ポイント以上低い問題の数	合計
小学校調査	21年度	7問	3問	1問	11問
	(20年度)	(9問)	(2問)	(0問)	(11問)
中学校調査	21年度	4問	8問	4問	16問
	(20年度)	(8問)	(4問)	(1問)	(13問)

※ 過去の調査とは、昭和31～41年度の全国学力調査、昭和56～58、平成5～7、13、15年度の教育課程実施状況調査、平成16年度の特定の課題に関する調査及びTIMSS(国際数学・理科教育動向調査)を指す。同一の問題が複数回にわたり実施されている場合は、実施年度・実施学年が本調査に最も近いものと比較している。なお、各調査の実施時期や実施学年等が異なるため単純な比較ができないことに留意する必要がある。

○ 3回の調査の結果から明らかになった課題の例

○ 3回の調査の結果から、例えば、以下のような課題が明らかになった。

【小学校国語】

自分の見聞や体験に基づいて考えを書くことは比較的できるが、資料(図表・グラフなど)から情報を読み取り、与えられた条件に沿って事実や考えを書くことに課題がある。

(19年度B[2]三(2)) 環境問題について、見聞や体験を基にして自分の考えを書く。
(ごみを減らす取組 正答率：75.4%)

(20年度B[3]二) 読書量に関するグラフを理解し、それに基づいて自分の考えを書く。
(読書時間 正答率：33.0%)

(21年度B[2]二) アンケート結果の表を読み取り、それに基づいて一定の立場で考えを書く。
(そうじ・整とんアンケート 正答率：25.9%)

【小学校算数】

与えられた複数の条件を整理して、すべての条件を満たす結論を導き出すことに課題がある。

(19年度B[4](1)) ケーキ屋の各曜日の安売りの条件から代金を求めて比較する。
(ケーキ屋 正答率：29.5%)

(21年度B[3](1)) 集合時刻や所要時間などの条件を整理し、出発時刻を時刻表から選択する。
(時刻表 正答率：40.0%)

(21年度B2) 3回の実験結果を基に、重さの範囲を記述し、当てはまる重さを選択する。
(上皿てんびん 正答率：45.9%)

【中学校国語】

文章や資料を読んで、示された条件に合った表現で書くことに課題がある。

(20年度B[2]三) 2人の登場人物の行動を、示された条件に合った表現に直して書く。
(馬盗人 正答率：46.9%)

(21年度B[1]三ア) 図書館案内図の表現の工夫を取り入れて、自校の案内図の見出しを書く。
(図書館案内図 正答率：59.9%)

【中学校数学】

日常的な事柄を、一次関数の問題としてとらえ、判断する方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(19年度B[5](3)) 水をx分間熱した場合の温度を $y^{\circ}\text{C}$ としたときの一次関数のグラフから、 80°C になる時間を求める方法を説明する。
(水温の変化 正答率：40.2%)

(20年度B[5](3)) 高さが高くなるのに伴って気温が下がることを示す一次関数のグラフから、特定の高さにおける気温を求める方法を説明する。
(富士山の気温 正答率：13.3%)

(21年度B3) 電球型蛍光灯と白熱電球との総費用を示す一次関数のグラフから、両者が等しくなる時間を求める方法を説明する。(電球型蛍光灯 正答率：19.9%)

○ 調査時間についての児童生徒の反応

○ 21年度調査の特徴としては、20年度と比べ、設問の数や問題文の分量を減らすなどの工夫を行ったため、解答時間が十分でなかった児童生徒の割合が減少している。

【解答時間が「やや足りなかった」または「全く足りなかった」と回答した児童生徒の割合】

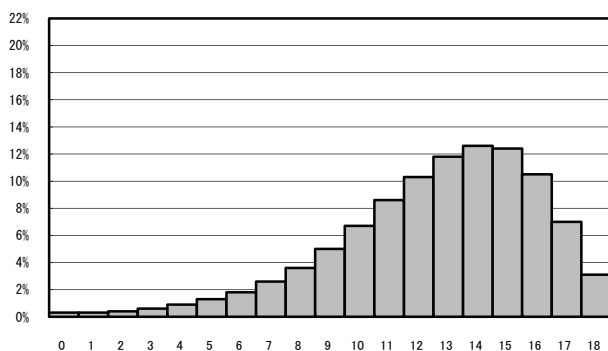
	小学校調査				中学校調査			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
21年度	42.7%	37.4%	15.8%	28.6%	5.0%	8.0%	7.1%	13.5%
20年度	43.6%	40.9%	20.1%	30.9%	9.3%	31.0%	10.0%	30.4%

【小学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率は70.1%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ ローマ字を正しく読んだり書いたりすること〔A〔2〕(1) 69.5% (2) 45.8% (3) 52.2%〕
 - ・ 接続語を使って一文を二文に分けて書くこと〔A〔8〕 15.0%〕
- 国語B（活用）の平均正答率は50.7%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 自分の立場や意図を明確にして話し合うこと〔B〔2〕 25.9%〕
 - ・ 話の組立てを工夫しながら、図を使って説明すること〔B〔4〕二ア 57.5% イ 62.2%〕
- 過去の調査との同一問題（6問）のうち1問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、4問は今回の方が高く、1問は低くなっている。

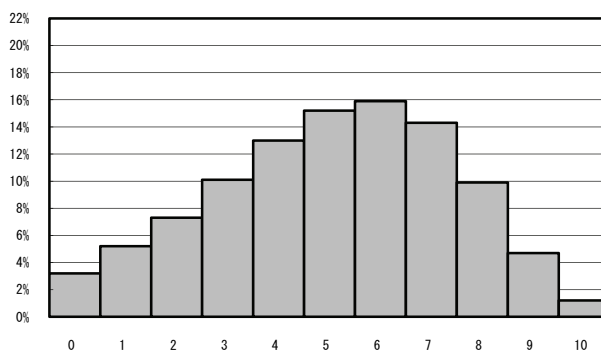
[国語A]

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,150,061人	12.6問 / 18問 (70.1%)	13.0問	3.4



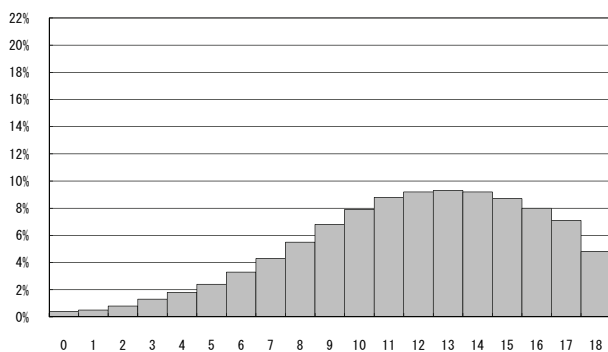
[国語B]

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,149,850人	5.1問 / 10問 (50.7%)	5.0問	2.4



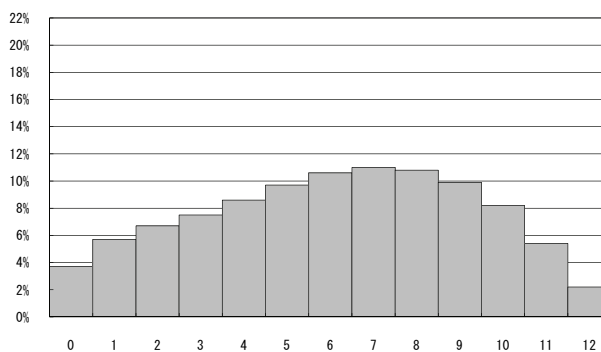
【参考】[20年度国語A]

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,160,464人	11.8問 / 18問 (65.6%)	12.0問	4.0



【参考】[20年度国語B]

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,160,284人	6.1問 / 12問 (50.7%)	6.0問	3.1



○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・学年）
漢字を読む（混雑）	95.2%	92.5%（平成15年度・小5）
〃（移る）	91.2%	81.3%（平成16年度・小5）
〃（採集）	80.1%	71.1%（平成16年度・小5）
漢字を書く（病院）	76.3%	40.4%（昭和39年度・小5）
〃（賛成）	78.4%	30.1%（昭和31年度・小6）
〃（運ぶ）	80.7%	83.8%（平成13年度・小5）

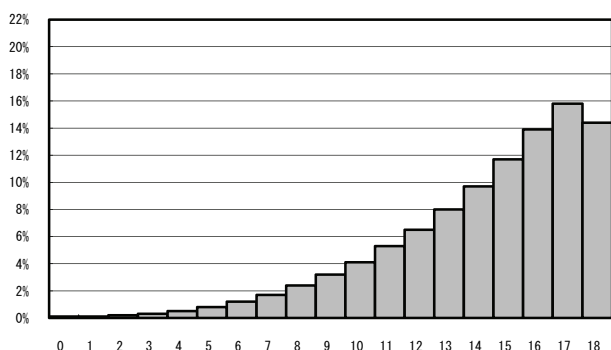
※各調査の実施時期や実施学年等が異なるため単純な比較ができないことに留意する必要がある。

【小学校算数】

- 算数A（知識）の平均正答率は78.8%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 数直線の一目盛りの大きさに着目し、数を読み取ること〔A $\boxed{2}$ (1) 64.3%〕
 - ・ 百分率を求めること〔A $\boxed{7}$ 57.1%〕
- 算数B（活用）の平均正答率は55.0%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 示された解決方法を理解して、見方を変えた解決方法を考えて書くこと〔B $\boxed{1}$ (3) 30.5%〕
 - ・ グラフから割合の大きさを判断し、その理由を書くこと〔B $\boxed{5}$ (3) 17.9%〕
- 過去の調査との同一問題（5問）のうち2問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、3問は今回の方が高くなっている。

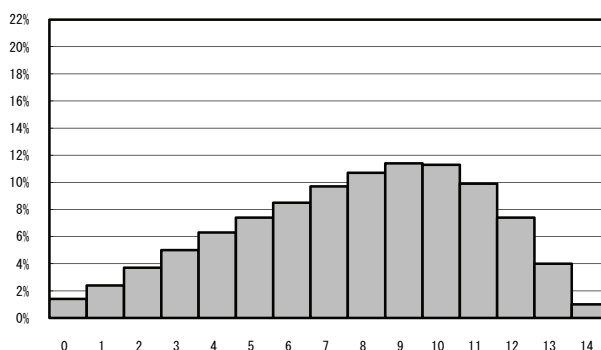
〔算数A〕

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,150,097人	14.2問 / 18問 (78.8%)	15.0問	3.4



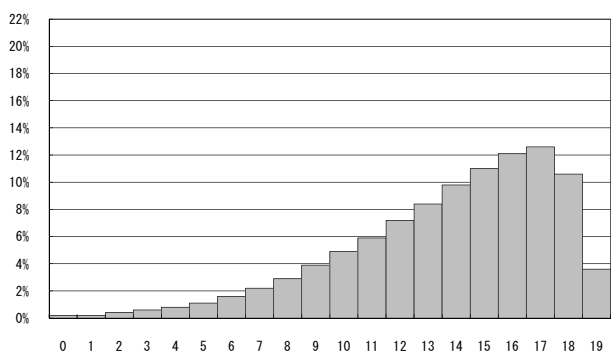
〔算数B〕

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,149,876人	7.7問 / 14問 (55.0%)	8.0問	3.3



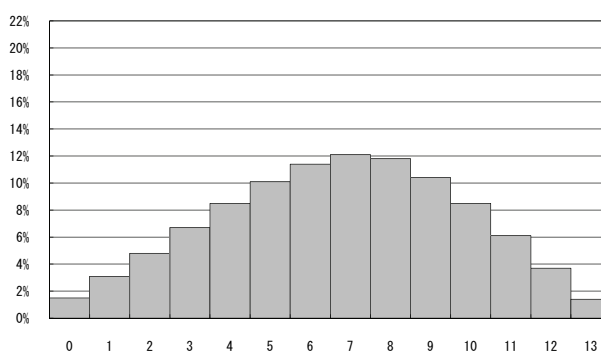
【参考】〔20年度算数A〕

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,160,515人	13.7問 / 19問 (72.3%)	14.0問	3.7



【参考】〔20年度算数B〕

児童数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,160,354人	6.7問 / 13問 (51.8%)	7.0問	3.0



○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・学年）
$204 \div 4$	95.4%	83.8%（TIMSS2003・小4）
$48.1 \div 1.3$	80.5%	71.3%（平成15年度・小5）
$7/6 - 2/6$	97.8%	95.7%（平成15年度・小5）
$80 - 30 \div 5$	67.0%	49.9%（昭和37年度・小5）
整数の中から偶数を選ぶ	77.5%	80.4%（平成13年度・小5）

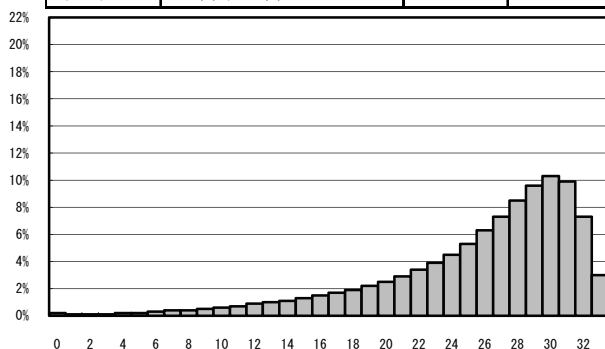
※各調査の実施時期や実施学年等が異なるため単純な比較ができないことに留意する必要がある。

【中学校国語】

- 国語 A（知識）の平均正答率は 77.4%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くこと〔A¹〕- 50.8%〕
 - ・ 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと〔A⁷〕- 29.2%〕
- 国語 B（活用）の平均正答率は 75.0%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること〔B¹三ア 59.9%〕
 - ・ 説明的な文章と補助資料とのかかわりを理解すること〔B²三 64.8%〕
- 過去の調査との同一問題（10 問）のうち 5 問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、2 問は今回の方が高く、3 問は低くなっている。

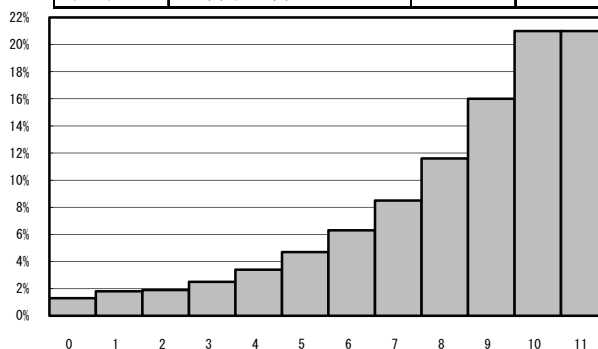
〔国語 A〕

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,077,333人	25.6問 / 33問 (77.4%)	27.0問	6.1



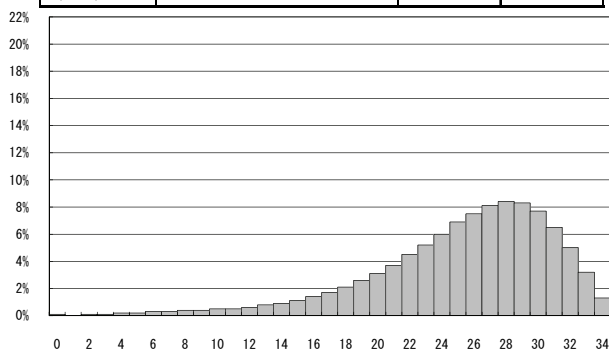
〔国語 B〕

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,077,767人	8.3問 / 11問 (75.0%)	9.0問	2.7



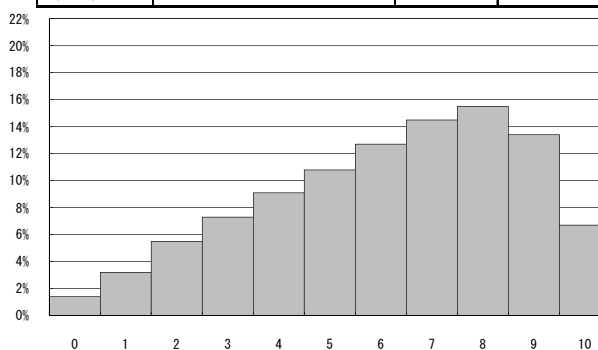
〔参考〕〔20 年度国語 A〕

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,075,695人	25.2問 / 34問 (74.1%)	26.0問	5.7



〔参考〕〔20 年度国語 B〕

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,075,992人	6.2問 / 10問 (61.6%)	7.0問	2.5



○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・学年）
漢字を書く（遺産）	75.7%	75.5%（平成 16 年度・中 3）
〃（磁石）	84.3%	83.8%（平成 15 年度・中 2）
〃（補う）	54.6%	61.6%（平成 16 年度・中 3）
漢字を読む（抵抗）	98.2%	96.6%（平成 16 年度・中 1） 96.1%（平成 15 年度・中 1）
〃（迫る）	91.3%	79.6%（昭和 57 年度・中 3）
語句選択（鬼をおいはらうならわし）	71.7%	86.8%（昭和 37 年度・中 2）
敬語選択（洋服をおめしになって）	86.1%	88.0%（平成 15 年度・中 2） 84.4%（平成 13 年度・中 2）
同音異義語選択（報道機関）	75.4%	84.8%（平成 15 年度・中 3）
接続詞選択（そうであっても）	92.4%	94.8%（平成 15 年度・中 3）
同音異義語選択（祝辞）	72.8%	53.6%（昭和 38 年度・中 2）

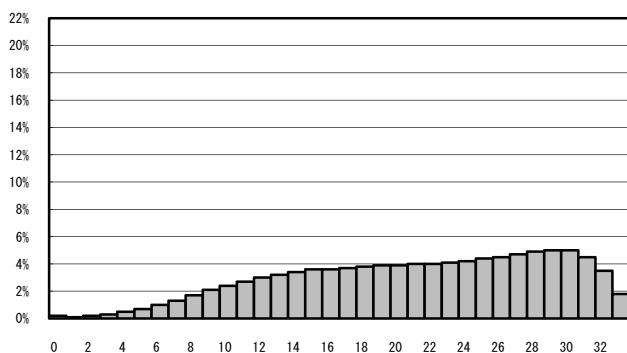
※各調査の実施時期や実施学年等が異なるため単純な比較ができないことに留意する必要がある。

【中学校数学】

- 数学A（知識）の平均正答率は63.4%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 一元一次方程式を立式するために、等しい関係にある2つの数量に着目すること
〔A $\boxed{3}$ (3) 36.3%〕
 - ・ 証明の意義を理解すること〔A $\boxed{8}$ 29.7%〕
- 数学B（活用）の平均正答率は57.6%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・ 図形の特徴を的確にとらえ、数学的な表現を用いて説明すること〔B $\boxed{1}$ (2) 47.2%〕
 - ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること
〔B $\boxed{3}$ (3) 19.9%〕
- 過去の調査との同一問題（6問）のうち3問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、2問は今回の方が高く、1問は低くなっている。

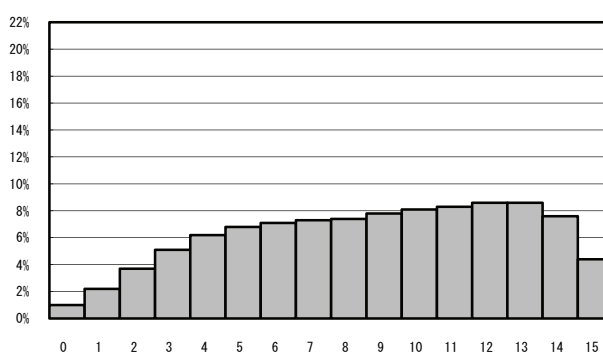
【数学A】

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,077,950人	20.9問 / 33問 (63.4%)	22.0問	7.6



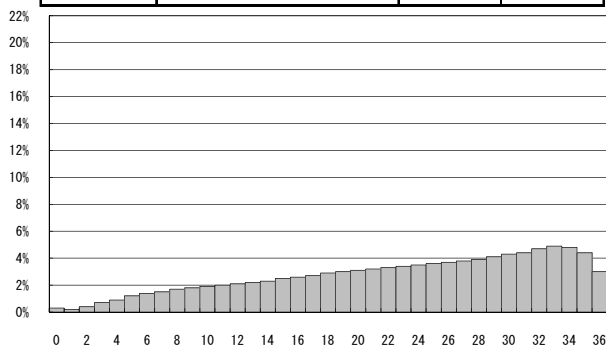
【数学B】

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,077,972人	8.6問 / 15問 (57.6%)	9.0問	3.9



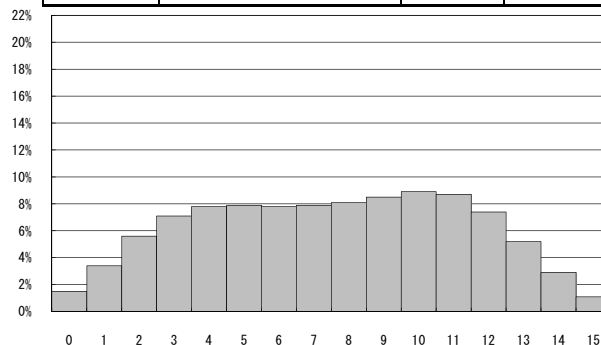
【参考】[20年度数学A]

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,076,171人	23.0問 / 36問 (63.9%)	24.0問	9.0



【参考】[20年度数学B]

生徒数	平均正答数 (平均正答率)	中央値	標準偏差
1,076,269人	7.5問 / 15問 (50.0%)	8.0問	3.7



○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・学年）
$15:9=5:\square$	89.1%	90.6%（平成15年度・小6）
$3x \times (-4xy)$	91.3%	84.2%（平成13年度・中2）
nが負の整数のとき、最も大きな数を選ぶ	67.2%	68.2%（TIMSS2003・中2）
$3/4x = 1/4x - 7$ を解く	53.5%	42.2%（昭和41年度・中3）
直角三角形の一边を軸として回転させてできる立体を選ぶ	87.6%	91.1%（平成16年度・中3） 63.9%（平成16年度・中1） 73.5%（平成15年度・中1） 71.2%（平成13年度・中1）
一次関数を表すメモの一部から、それを表す式を選ぶ	53.3%	55.5%（平成13年度・中2）

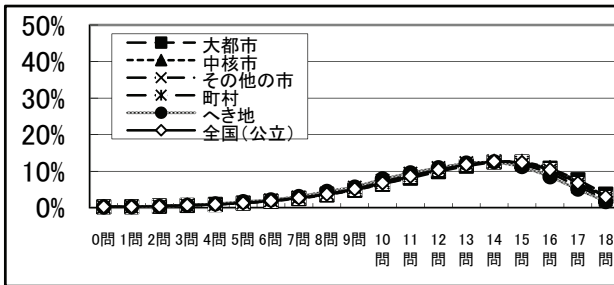
※各調査の実施時期や実施学年等が異なるため単純な比較ができないことに留意する必要がある。

○地域の規模等の状況

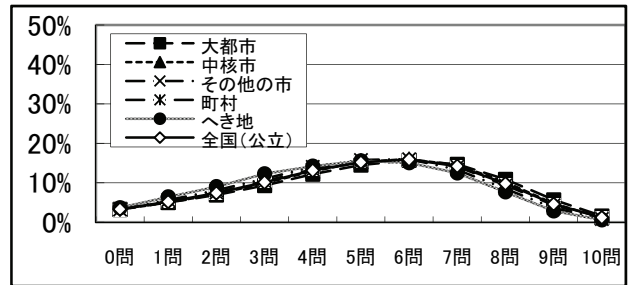
○小学校調査，中学校調査ともに，平均正答数，平均正答率，中央値，標準偏差を見ると，20年度同様，地域の規模等（公立：大都市，中核市，その他の市，町村，へき地）による大きな差は見られない。

【小学校調査】 正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:児童の割合)

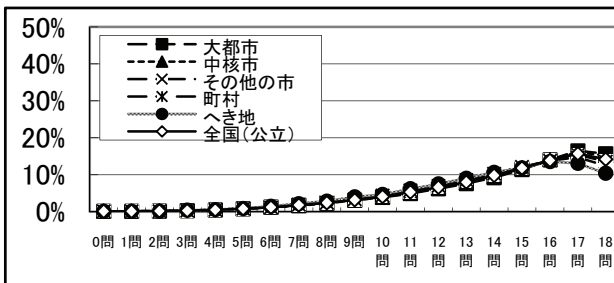
[国語A]



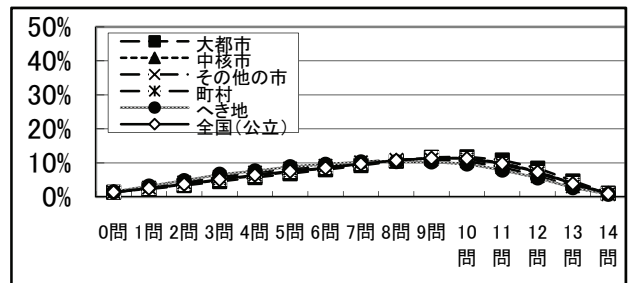
[国語B]



[算数A]

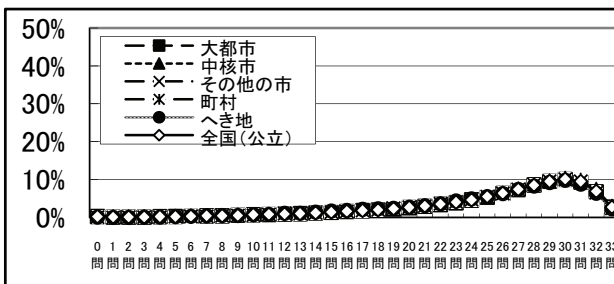


[算数B]

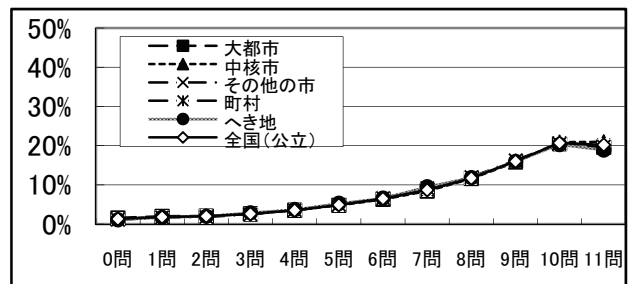


【中学校調査】 正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:児童の割合)

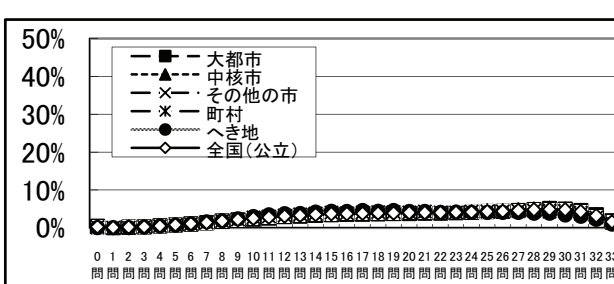
[国語A]



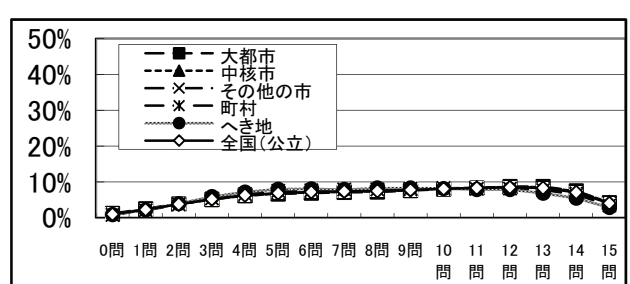
[国語B]



[数学A]



[数学B]



※大都市（政令指定都市及び東京23区），中核市，その他の市，町村の値は，当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

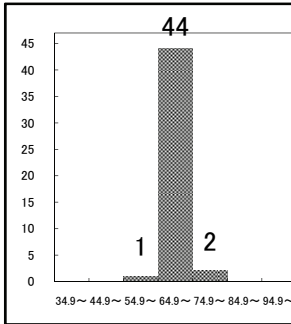
※へき地の値は，へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市，中核市，その他の市，町村の値に重複する。

○都道府県の状況

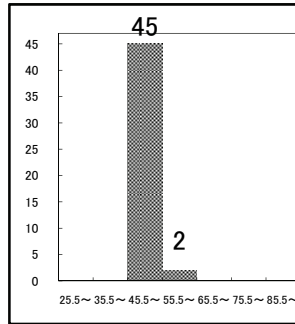
○各都道府県（公立）の状況については、平均正答率を見ると、20年度同様、ほとんどの都道府県が平均正答率の±5%の範囲内にあり、ばらつきが小さい。

【小学校調査】 正答率分布グラフ(横軸:平均正答率(%), 縦軸:都道府県数)

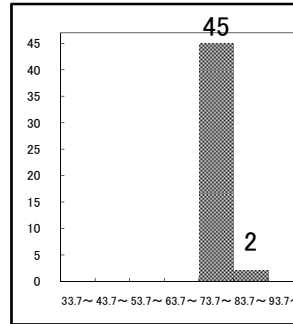
[国語A]



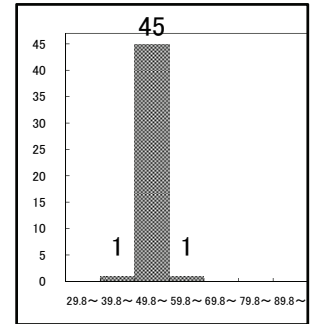
[国語B]



[算数A]



[算数B]

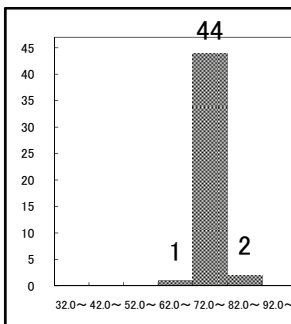


	全国(公立)の平均正答率	47都道府県(公立)中、最高平均正答率(全国との差)	47都道府県(公立)中、最低平均正答率(全国との差)
国語A	69.9%	75.5% (+5.6%)	64.5% (-5.4%)
国語B	50.5%	60.4% (+9.9%)	45.9% (-4.6%)

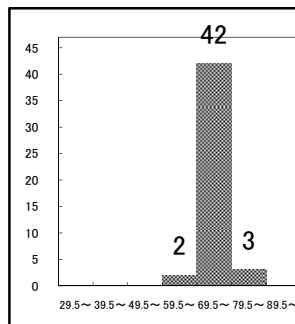
	全国(公立)の平均正答率	47都道府県(公立)中、最高平均正答率(全国との差)	47都道府県(公立)中、最低平均正答率(全国との差)
算数A	78.7%	86.2% (+7.5%)	74.1% (-4.6%)
算数B	54.8%	63.7% (+8.9%)	48.9% (-5.9%)

【中学校調査】 正答率分布グラフ(横軸:平均正答率(%), 縦軸:都道府県数)

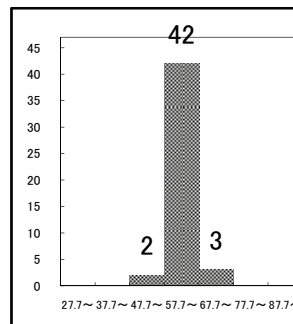
[国語A]



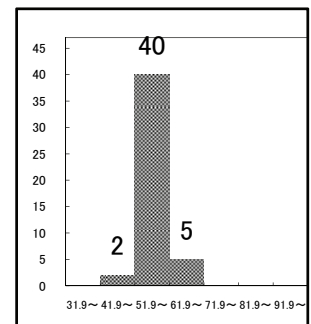
[国語B]



[数学A]



[数学B]



	全国(公立)の平均正答率	47都道府県(公立)中、最高平均正答率(全国との差)	47都道府県(公立)中、最低平均正答率(全国との差)
国語A	77.0%	82.3% (+5.3%)	69.5% (-7.5%)
国語B	74.5%	81.8% (+7.3%)	68% (-6.5%)

	全国(公立)の平均正答率	47都道府県(公立)中、最高平均正答率(全国との差)	47都道府県(公立)中、最低平均正答率(全国との差)
数学A	62.7%	70.5% (+7.8%)	51.4% (-11.3%)
数学B	56.9%	65.2% (+8.3%)	45.4% (-11.5%)

○学校の状況

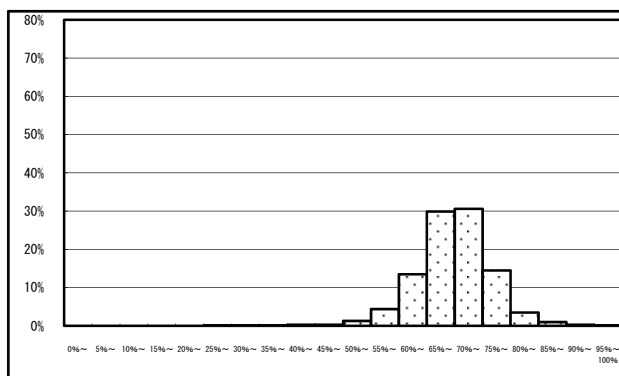
【小学校調査】

○各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、20年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
21,643校	12.5問 / 18問	69.6%	70.0%	7.1

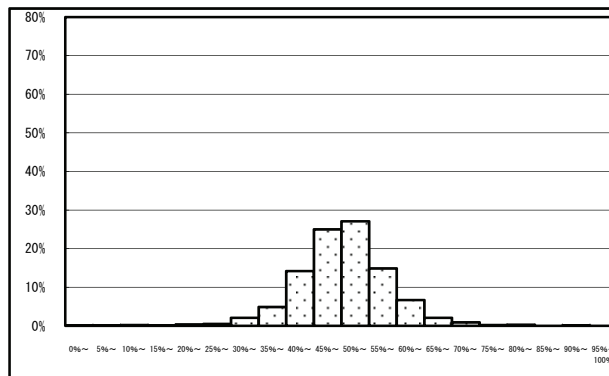
正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



[国語B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
21,641校	5.0問 / 10問	50.1%	50.1%	8.6

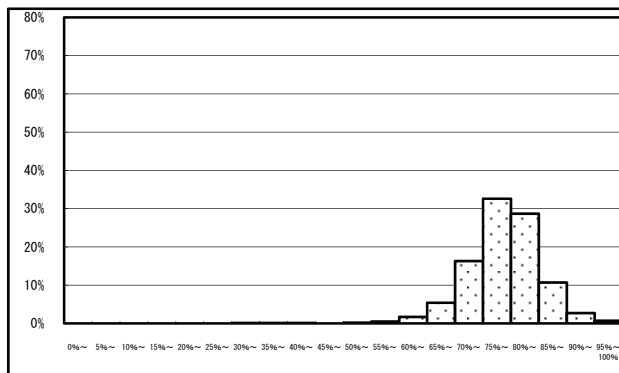
正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



[算数A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
21,642校	14.1問 / 18問	78.6%	78.9%	7.1

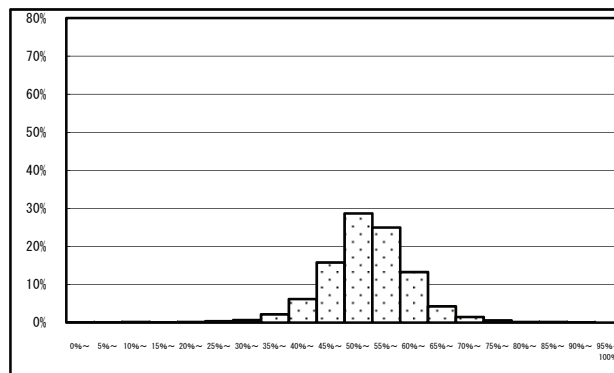
正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



[算数B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
21,641校	7.6問 / 14問	54.1%	54.2%	8.5

正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



【中学校調査】

○各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、20年度同様、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

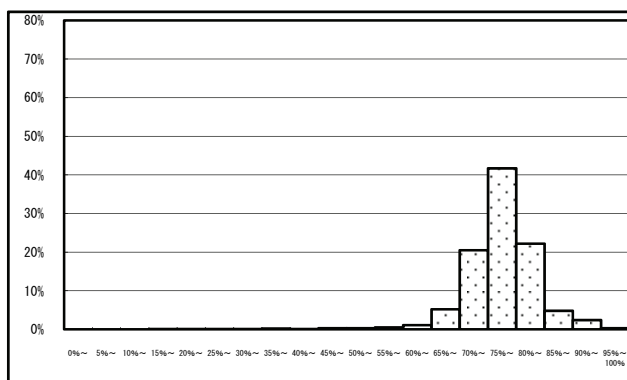
[国語A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
10,258 校	25.5 問 / 33 問	77.1%	77.6%	7.0

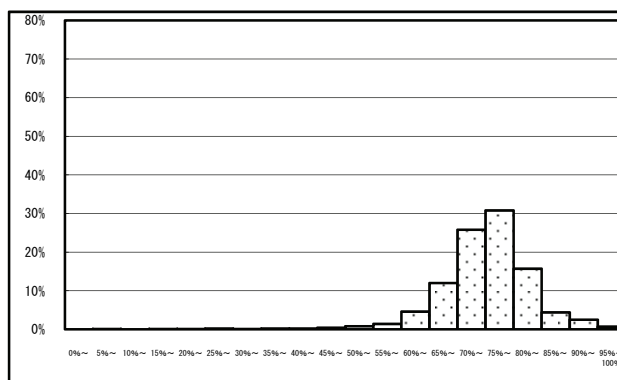
[国語B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
10,258 校	8.2 問 / 11 問	74.9%	75.6%	8.7

正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



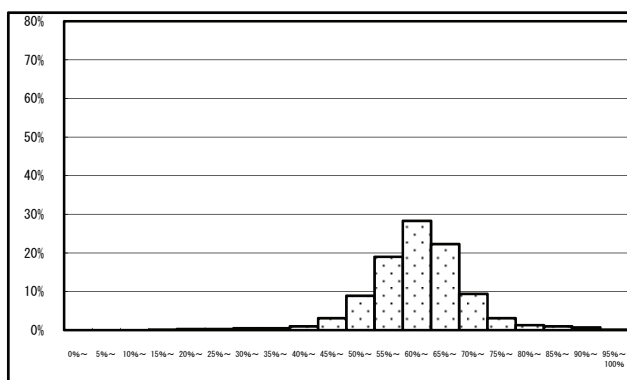
[数学A]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
10,254 校	20.7 問 / 33 問	62.7%	62.9%	9.2

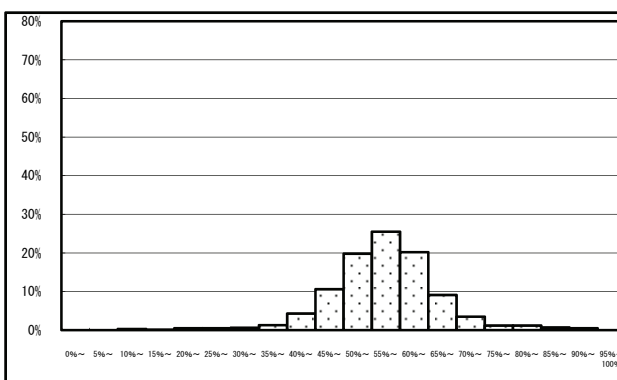
[数学B]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率		
	全国平均	全国平均	中央値	標準偏差
10,250 校	8.6 問 / 15 問	57.1%	57.2%	9.9

正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



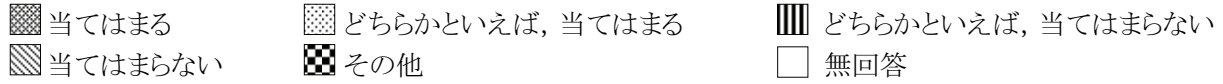
正答率分布グラフ(横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合)



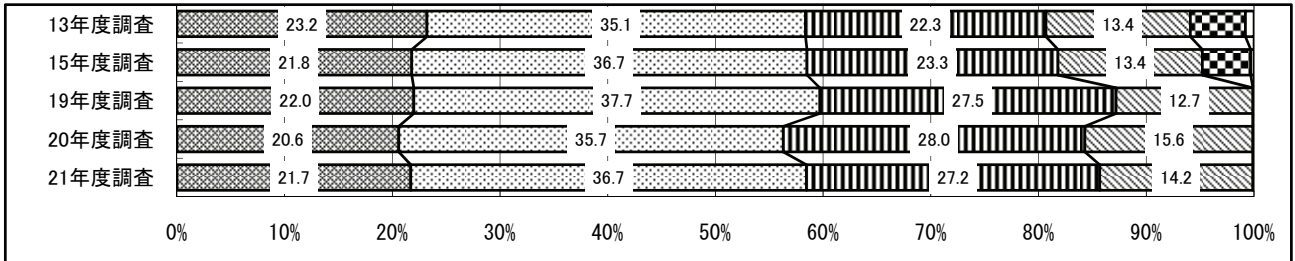
○児童生徒質問紙

学習に対する関心・意欲・態度

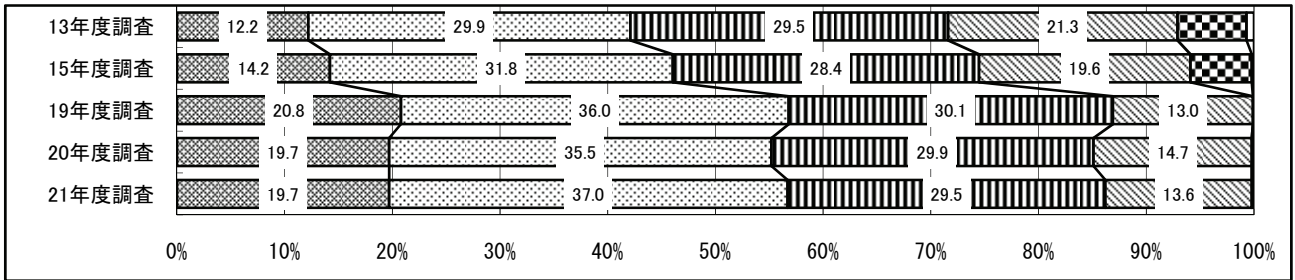
○国語の勉強が好きな児童の割合は、20年度は19年度と比べやや低くなったが、21年度は約58%と20年度と比べやや高くなっている。生徒の割合は約57%と、13年度・15年度と比べ高くなっているが、19年度からの3年間は大きな変化は見られない。



【小学校】*質問 52：国語の勉強は好きですか



【中学校】*質問 52：国語の勉強は好きですか

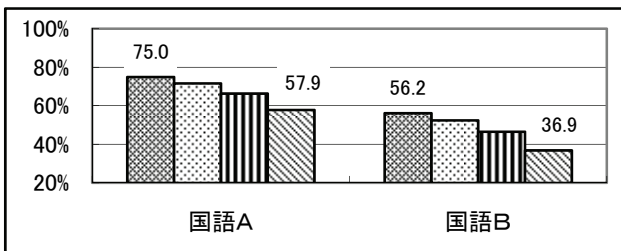


○国語の授業で、考えの理由が分かるように気をつけて書く児童生徒、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読む児童生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が強く見られる。

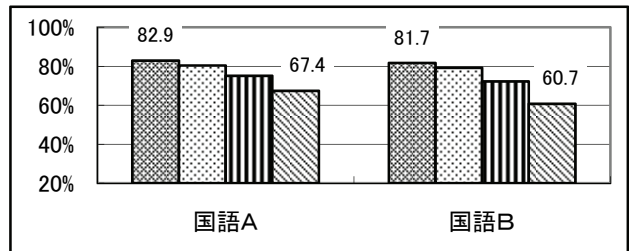


*質問 59：国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか

【小学校】

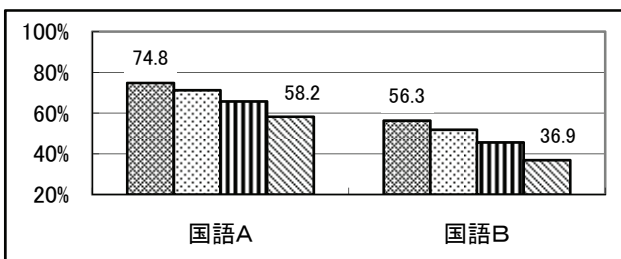


【中学校】

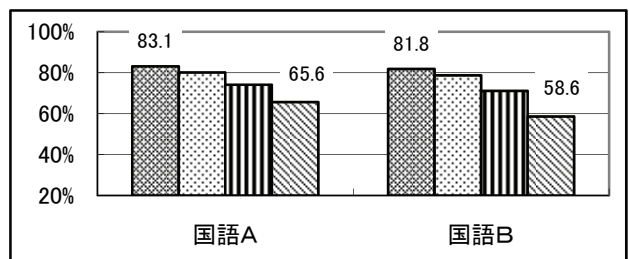


*質問 60：国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか

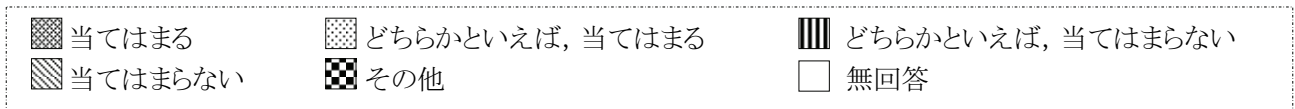
【小学校】



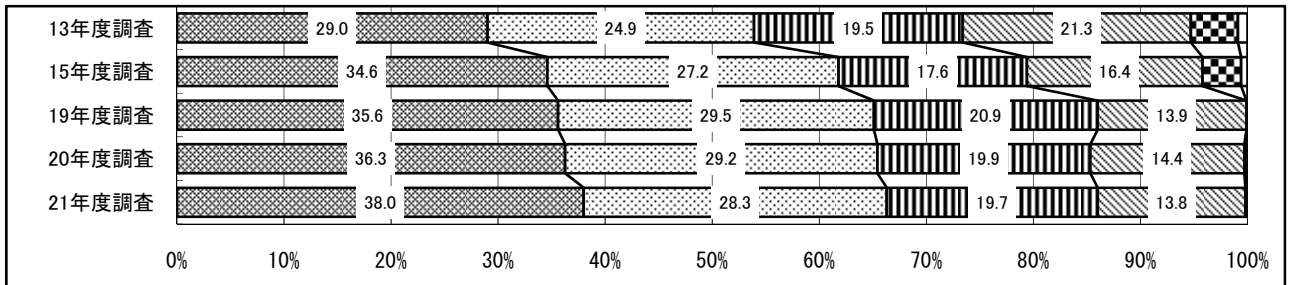
【中学校】



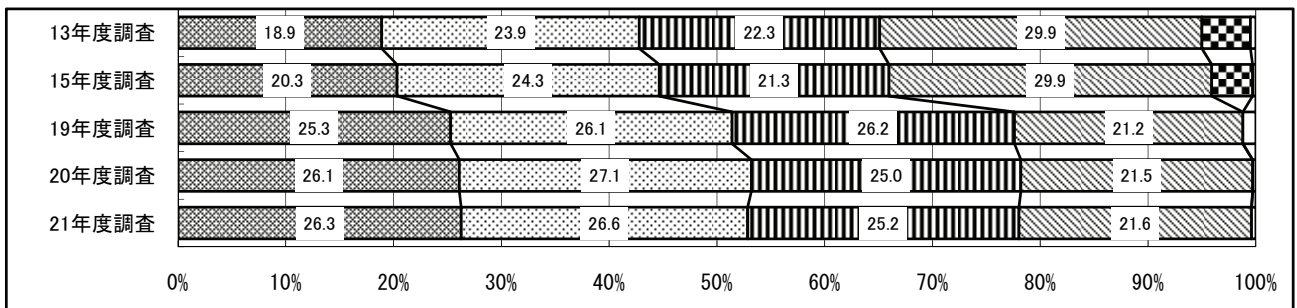
○算数・数学の勉強が好きな児童の割合は約 66%と増加傾向がうかがえる。生徒の割合は約 53%と、13 年度・15 年度と比べ高くなっているが、19 年度からの 3 年間は大きな変化は見られない。



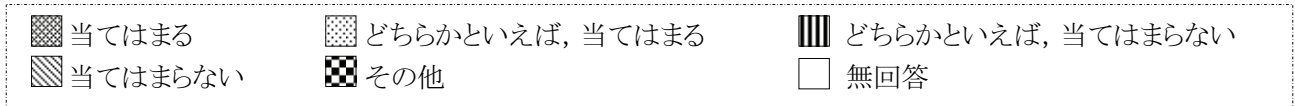
【小学校】*質問 63：算数の勉強は好きですか



【中学校】*質問 63：数学の勉強は好きですか

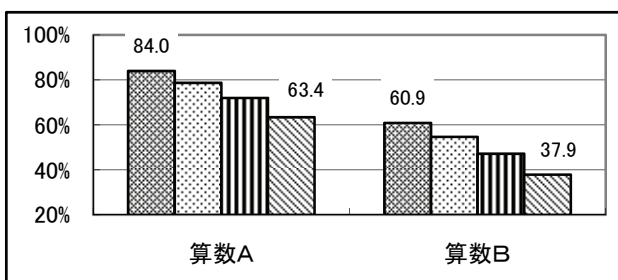


○算数・数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える児童生徒、算数・数学の授業で、公式やきまりのわけ（根拠）を理解しようとする児童生徒の方が、算数・数学の正答率が高い傾向が強く見られる。

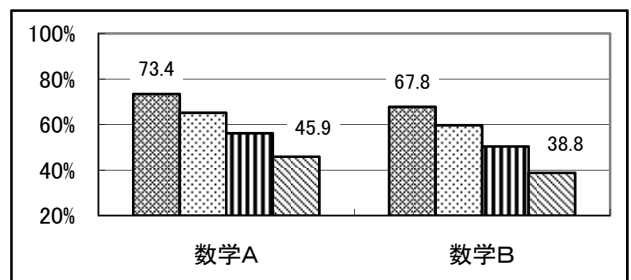


*質問 67：算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

【小学校】

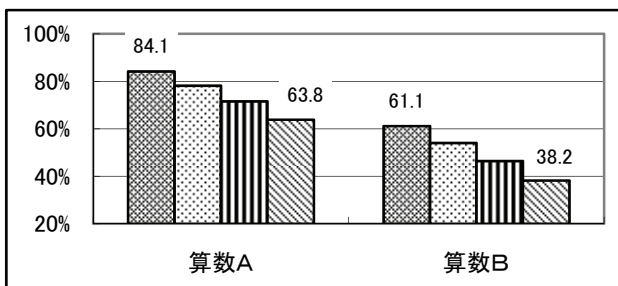


【中学校】

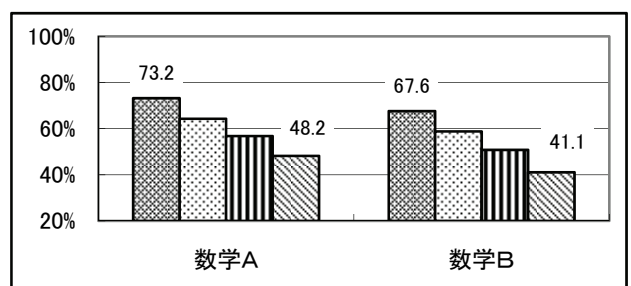


*質問 71：算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか

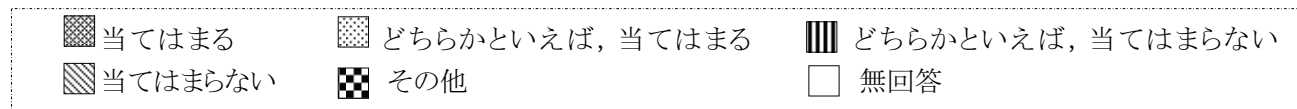
【小学校】



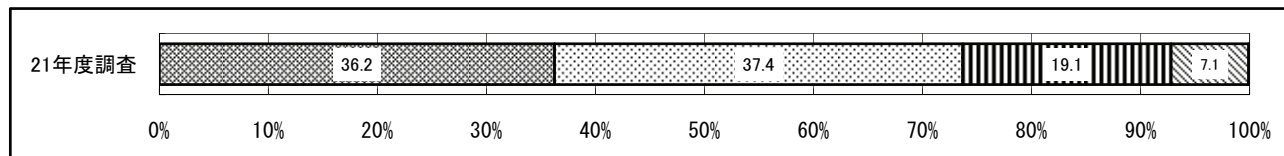
【中学校】



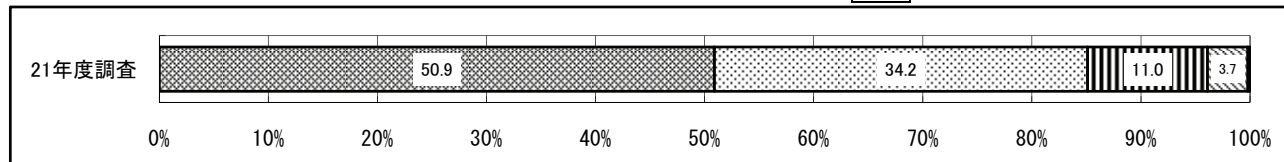
◎授業でノートを丁寧に書いている児童の割合は約74%、生徒の割合は約85%である。



【小学校】*質問49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか **新規**

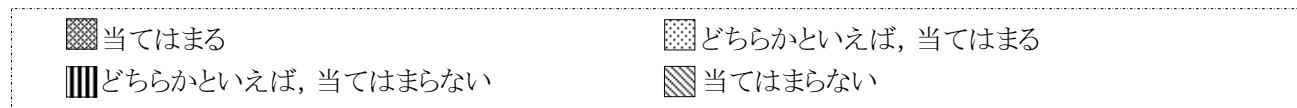


【中学校】*質問49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか **新規**



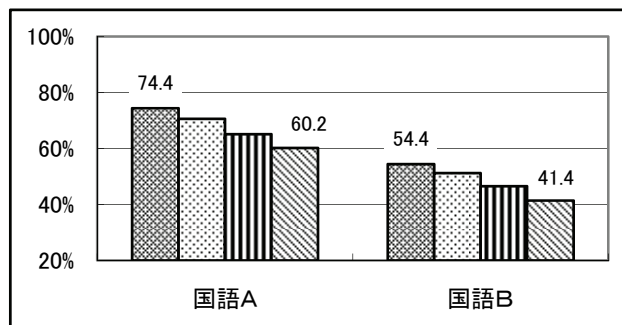
◎授業でノートを丁寧に書いている児童生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。

○算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く児童生徒の方が、算数・数学の正答率が高い傾向が見られる。

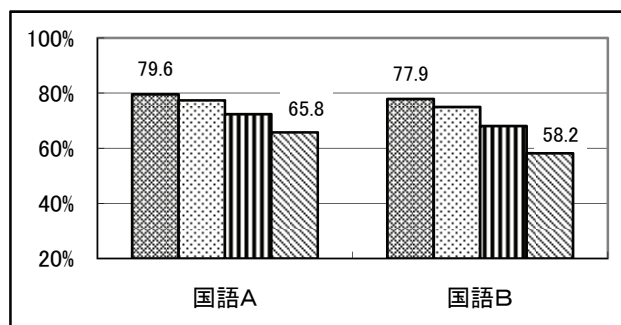


*質問49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか **新規**

【小学校】

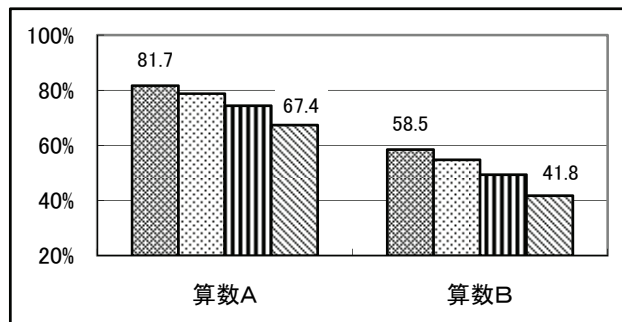


【中学校】

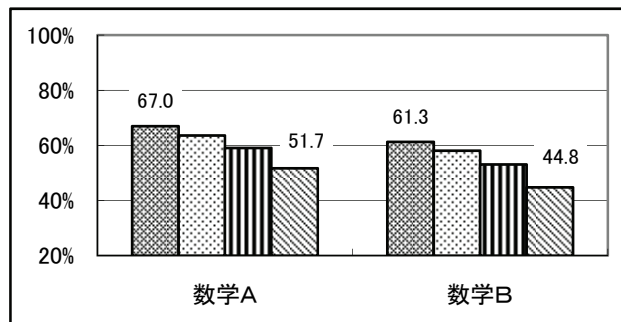


*質問72：算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

【小学校】

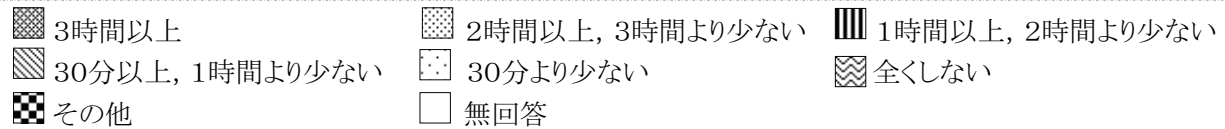


【中学校】

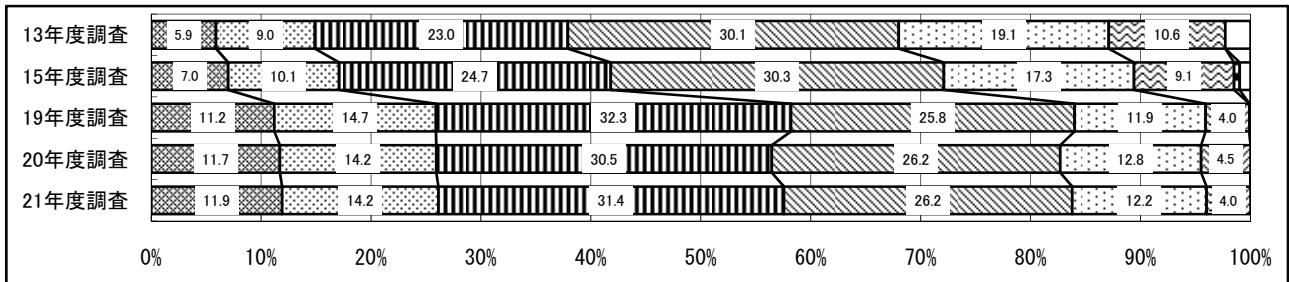


学習時間等

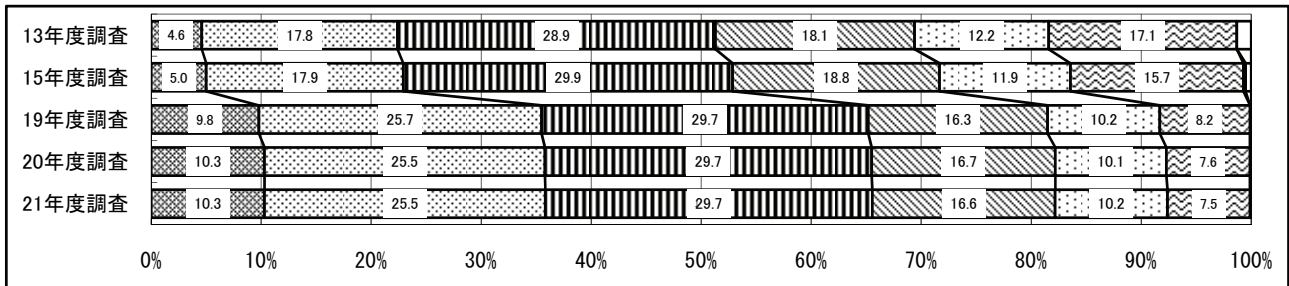
○1日当たりの児童生徒の学習時間は、13年度・15年度と比べ多くなっているが、19年度からの3年間は大きな変化は見られない。



【小学校】*質問 16: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



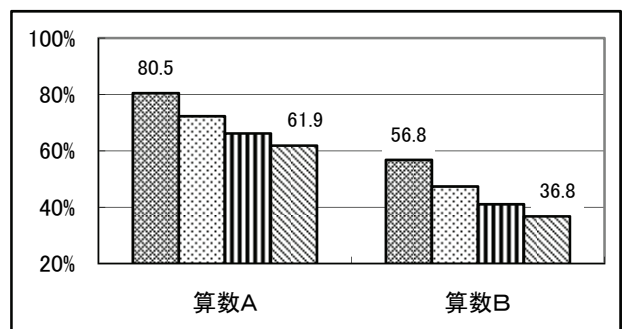
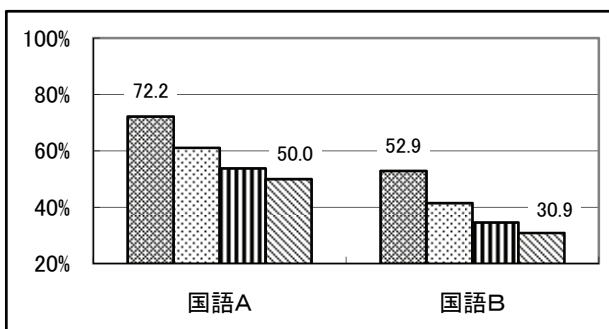
【中学校】*質問 16: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



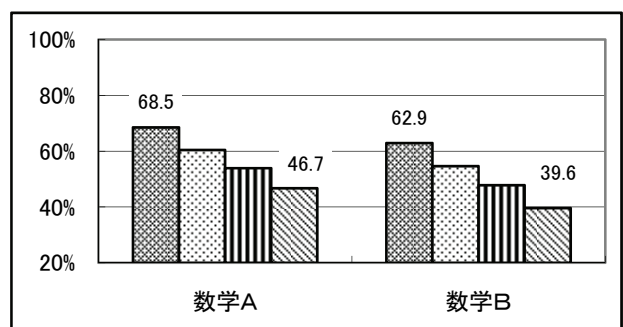
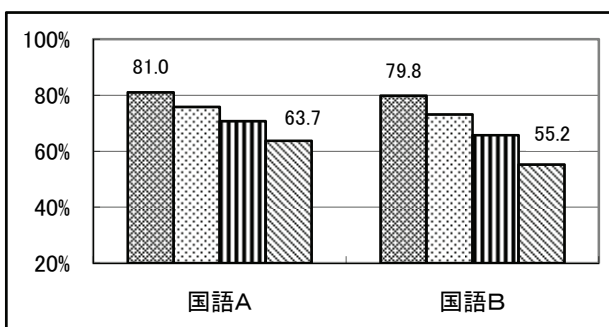
○家で学校の宿題をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が強く見られる。



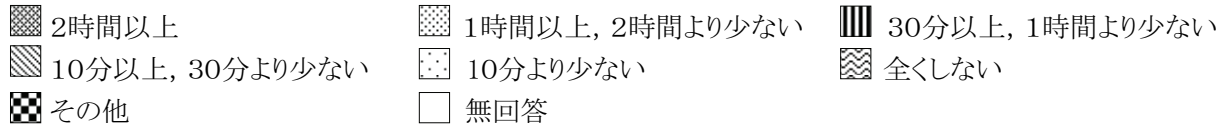
【小学校】*質問 27: 家で学校の宿題をしていますか



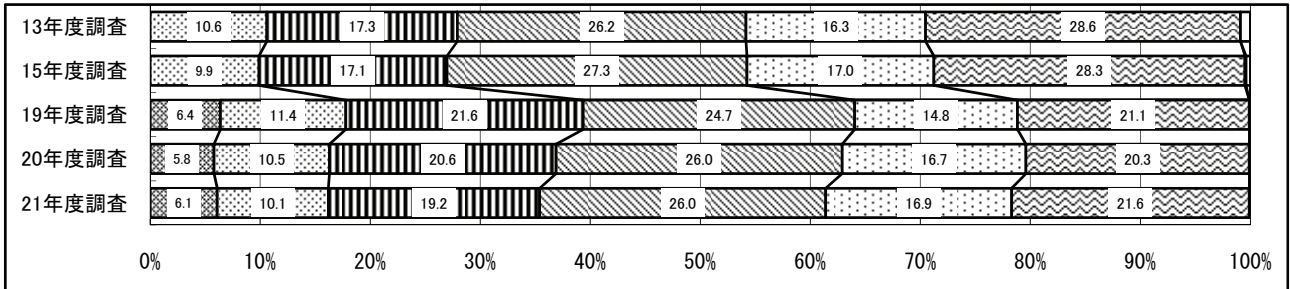
【中学校】*質問 27: 家で学校の宿題をしていますか



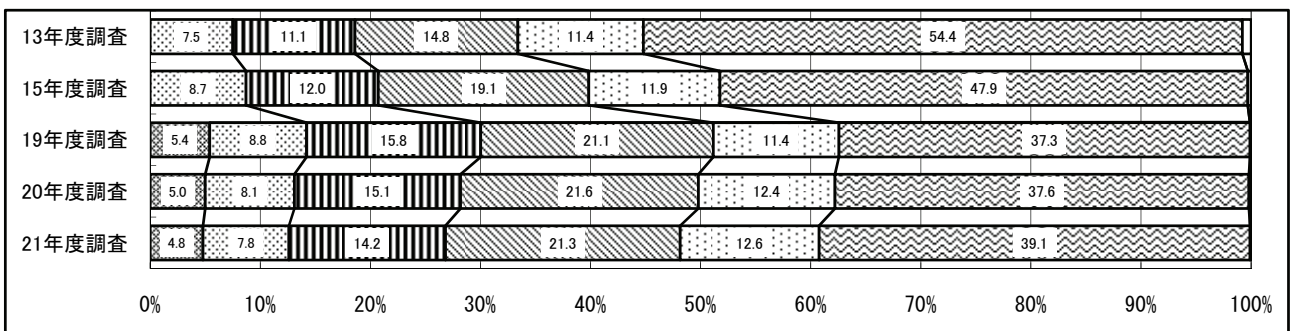
○家や図書館での1日当たりの読書時間は、13年度・15年度と比べ多くなっているが、19年度からの3年間は、20年度の児童が19年度と比べやや低くなっていることを除き、大きな変化は見られない。



【小学校】*質問 19：家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか



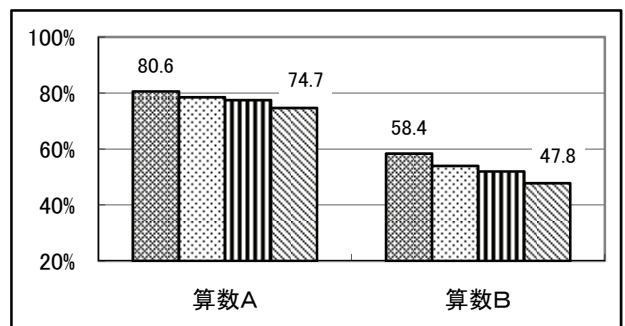
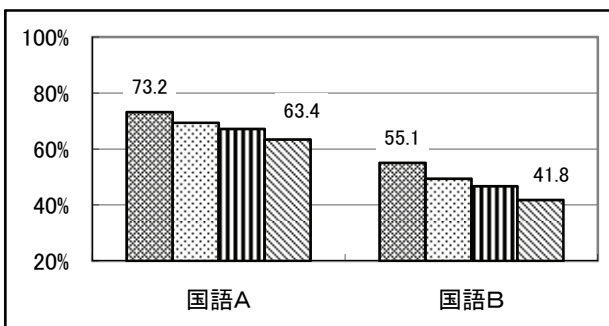
【中学校】*質問 19：家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか



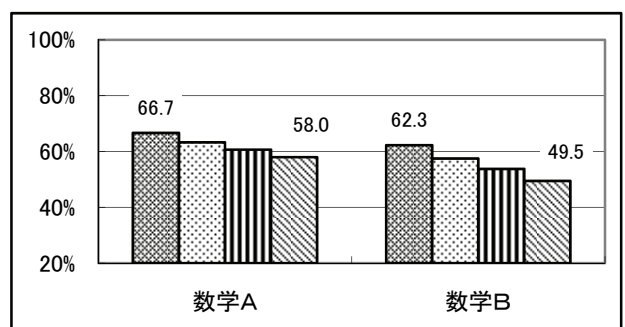
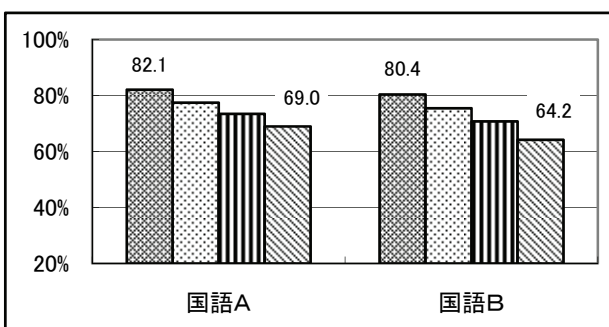
○読書が好きな児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。



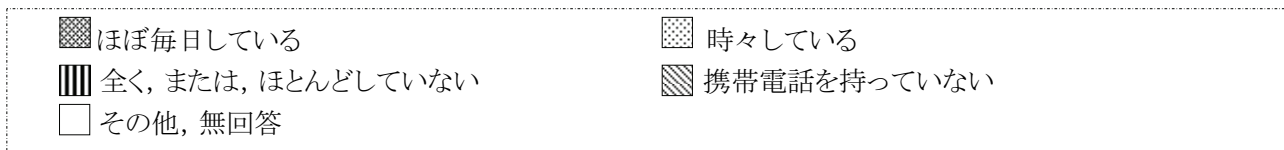
【小学校】*質問 55：読書は好きですか



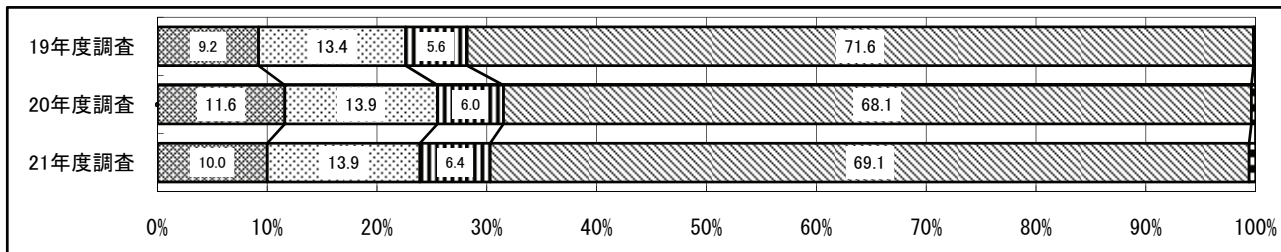
【中学校】*質問 55：読書は好きですか



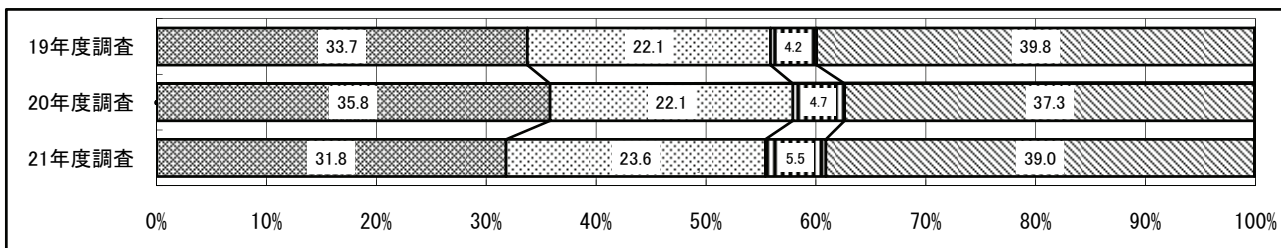
○携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している児童の割合は、20年度は19年度と比べやや高くなったが、21年度は約10%と20年度と比べ大きな変化は見られない。生徒の割合は、20年度は19年度と比べやや高くなったが、21年度は約32%とやや低くなっている。



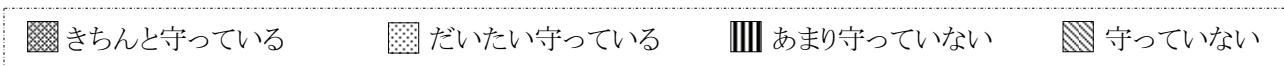
【小学校】*質問 15：携帯電話で通話やメールをしていますか



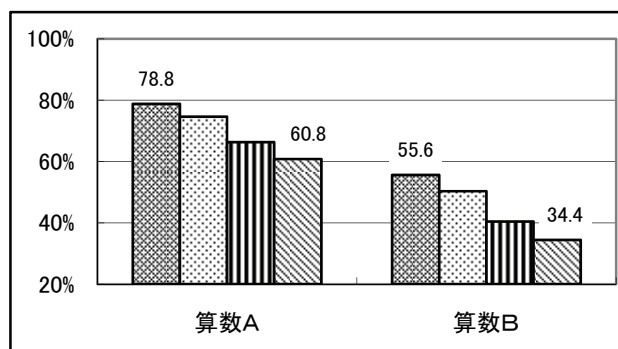
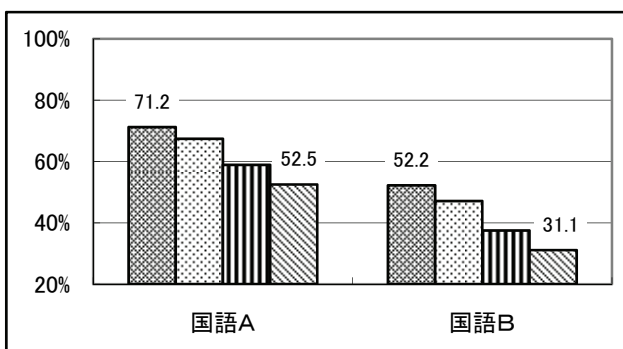
【中学校】*質問 15：携帯電話で通話やメールをしていますか



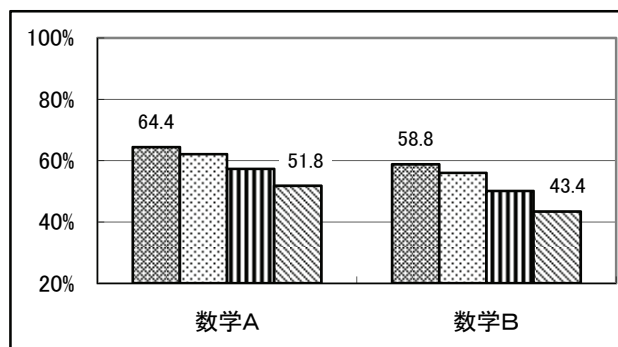
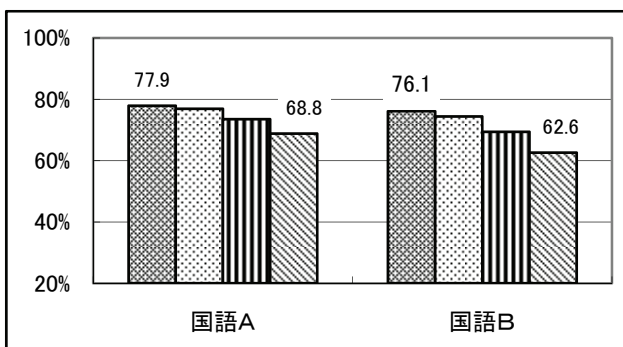
◎携帯電話の使い方について、家の人との約束を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問 25：携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか **新規**



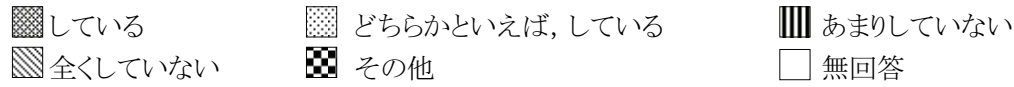
【中学校】*質問 25：携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか **新規**



※「携帯電話を持っているが、約束はない」及び「携帯電話を持っていない」の選択肢は省略している。

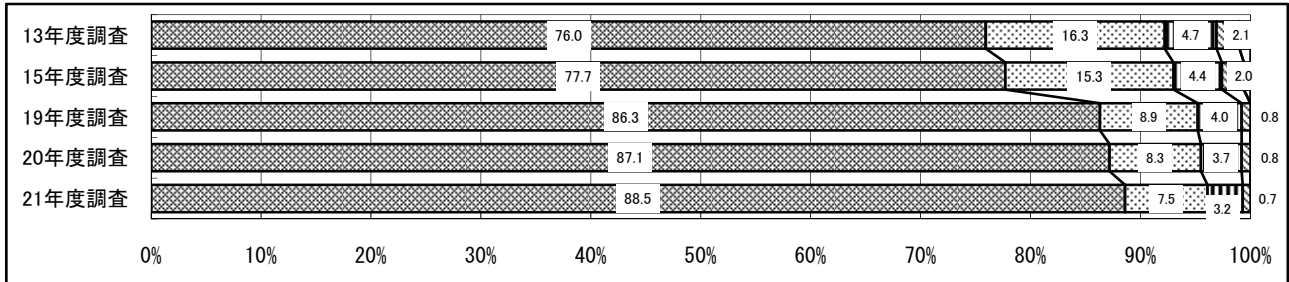
基本的生活習慣

○朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校が約 89%，中学校が約 82%と、ともに増加傾向がうかがえる。

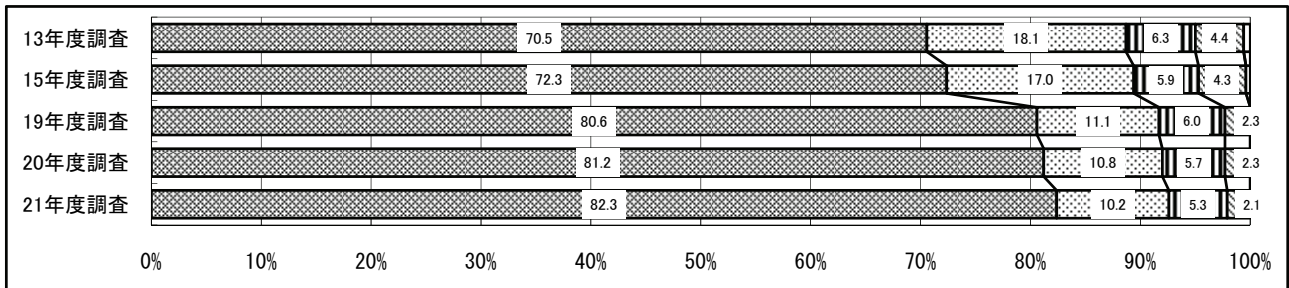


*質問 1：朝食を毎日食べていますか

【小学校】



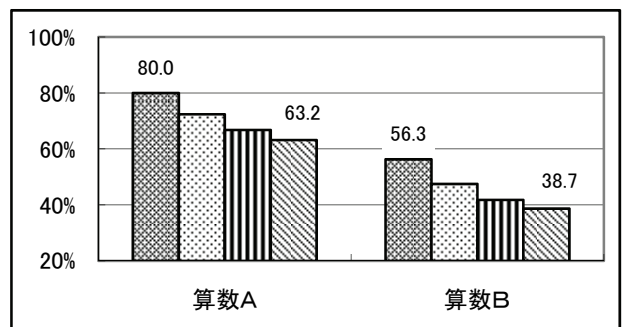
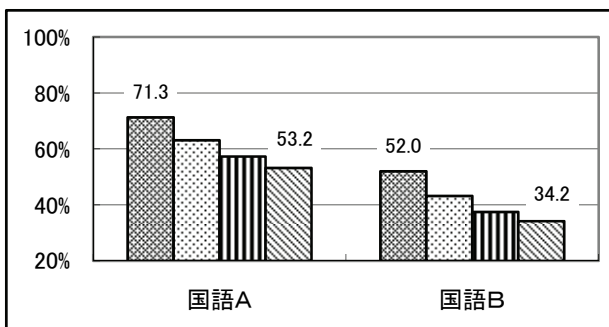
【中学校】



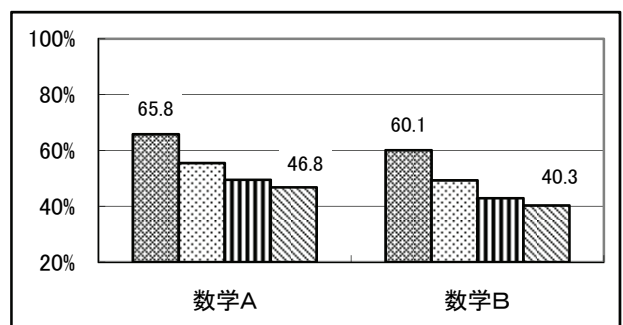
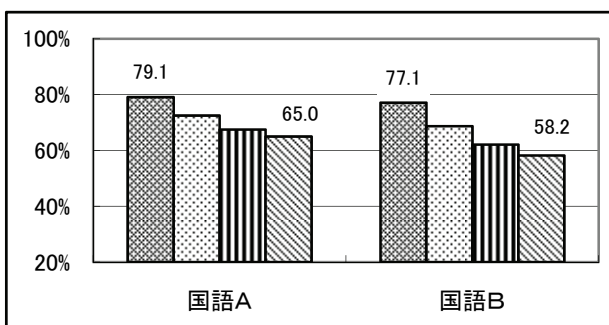
○朝食を毎日食べる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問 1：朝食を毎日食べていますか

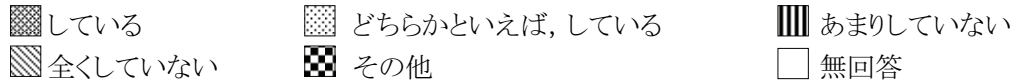


【中学校】*質問 1：朝食を毎日食べていますか

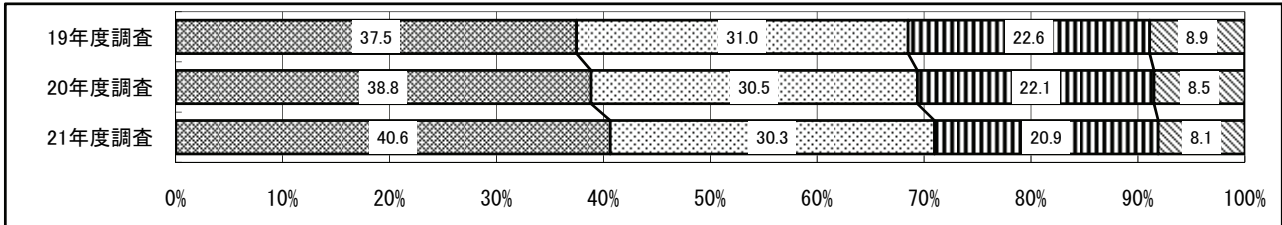


家庭でのコミュニケーション

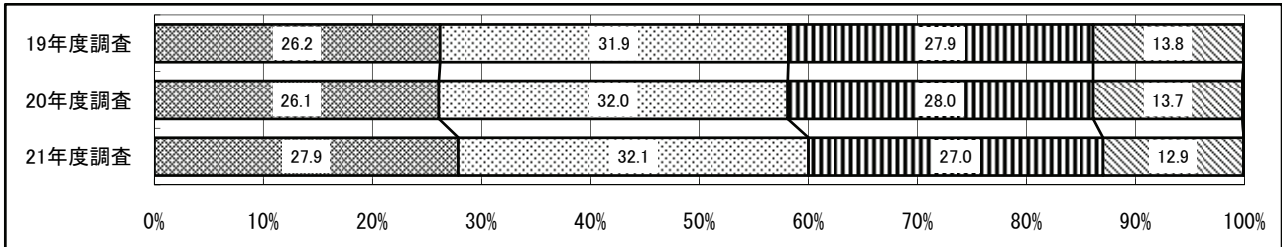
○家の人と学校での出来事について話をしている児童の割合は約71%と若干の増加傾向がうかがえるが、生徒の割合は約60%と大きな変化は見られない。



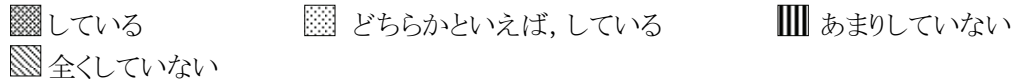
【小学校】*質問23：家の人と学校での出来事について話をしていますか



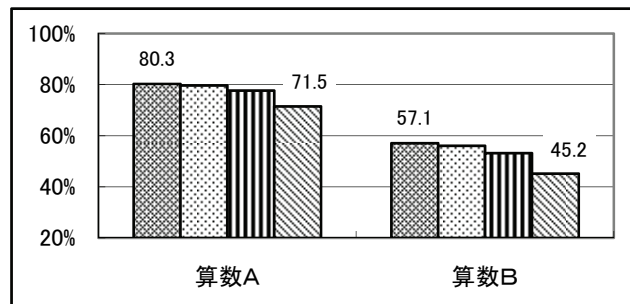
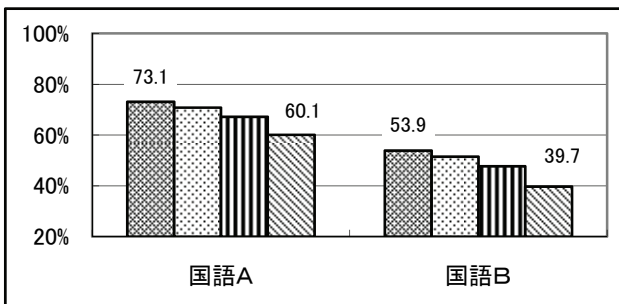
【中学校】*質問23：家の人と学校での出来事について話をしていますか



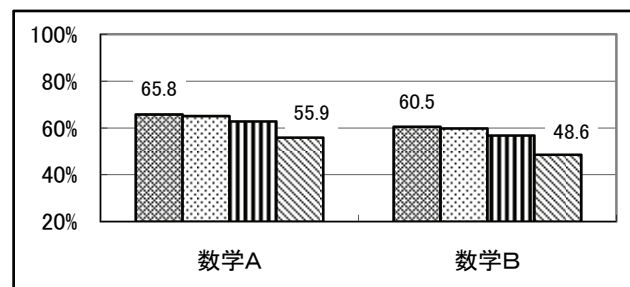
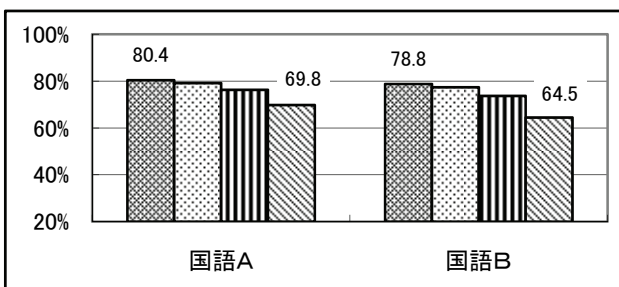
○家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問23：家の人と学校での出来事について話をしていますか



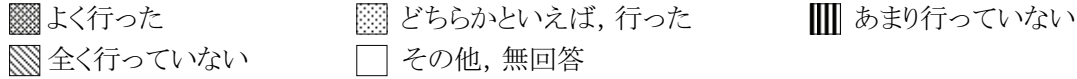
【中学校】*質問23：家の人と学校での出来事について話をしていますか



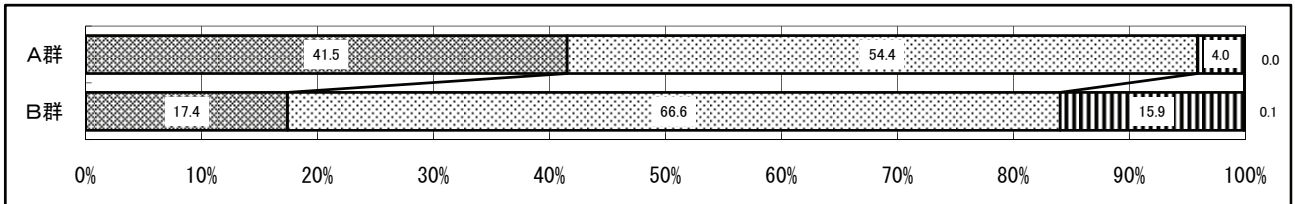
○学校質問紙

指導方法

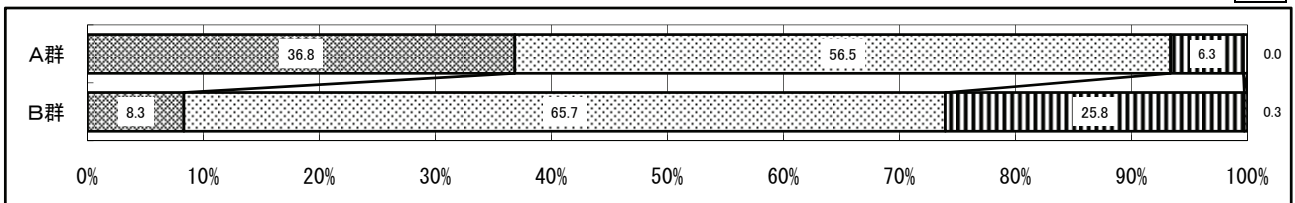
◎平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校(A群)の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校(B群)より、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていると回答している割合が高い傾向が見られる。



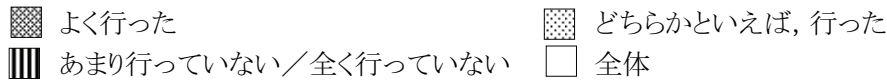
【小学校】*質問 36：児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか 新規



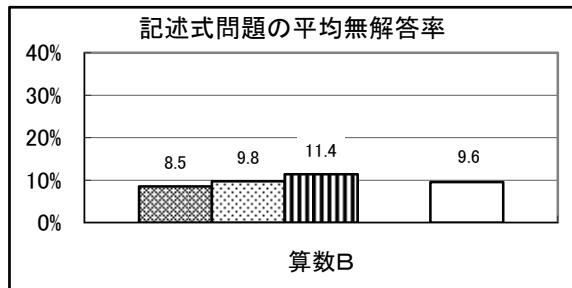
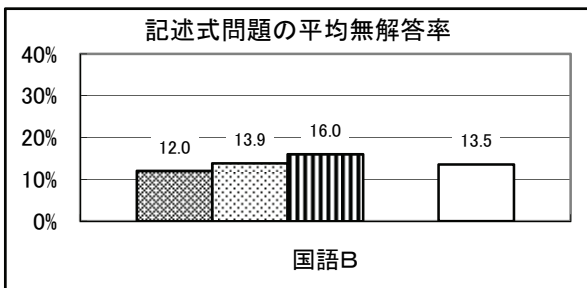
【中学校】*質問 36：生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか 新規



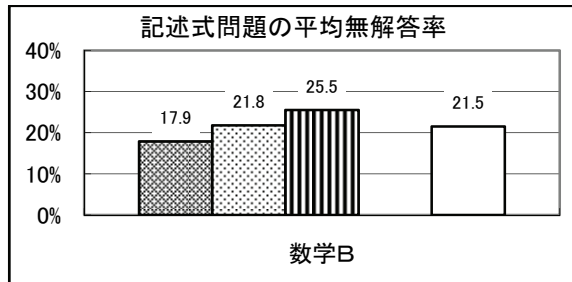
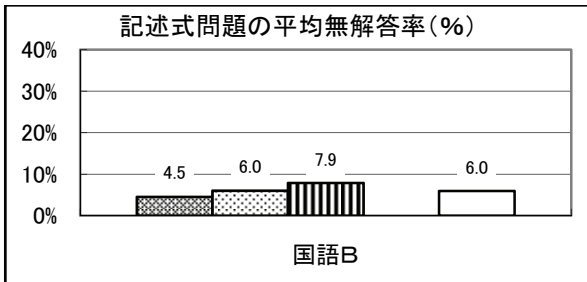
◎児童生徒に対して、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている学校の方が、記述式問題の平均無解答率が低い傾向が見られる。



【小学校】*質問 36：児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか 新規



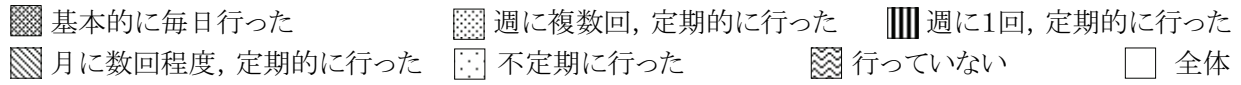
【中学校】*質問 36：生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか 新規



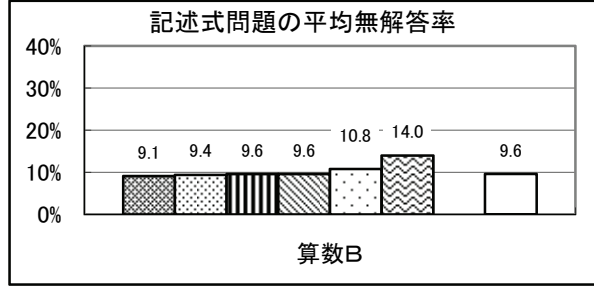
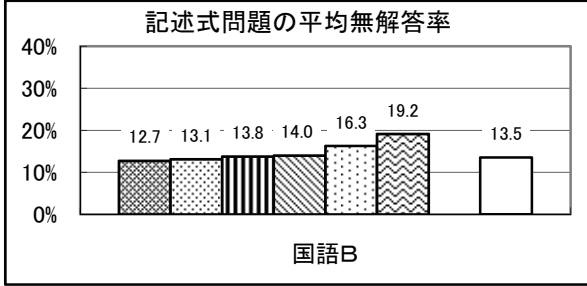
※A群およびB群による比較を行っているグラフについては、小学校第6学年又は中学校第3学年の学級数が2学級以上の公立学校(特別支援学校を除く)について分析している。国語A・B、算数(数学)A・Bのすべてにおいて、学校の平均正答率が、公立学校に在籍する児童生徒の正答率の全国平均を5ポイント以上上回る公立学校を「A群」、全国平均を5ポイント以上下回る公立学校を「B群」とする。

学力向上への取組等

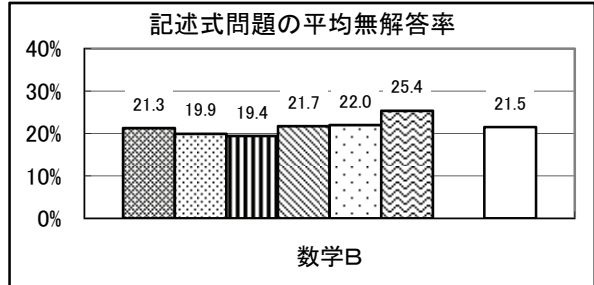
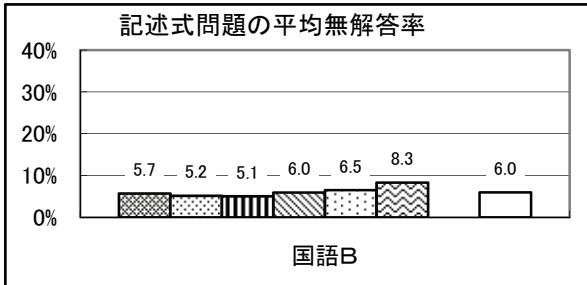
○「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の方が、記述式問題の平均無解答率が低い傾向が見られる。



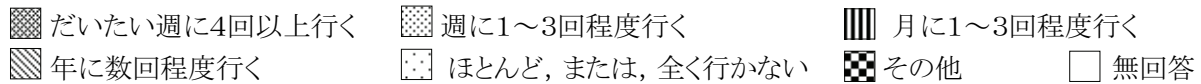
【小学校】*質問 23：「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



【中学校】*質問 23：「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



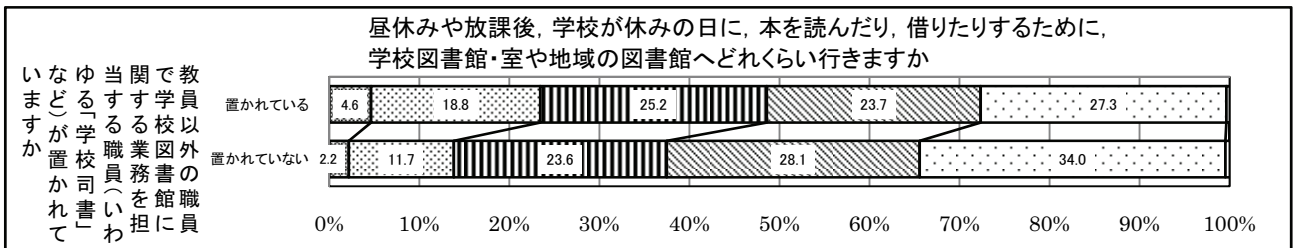
◎「学校司書」などが置かれている学校の方が、昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へ、月に1回以上行く児童生徒の割合が高い傾向が見られる。



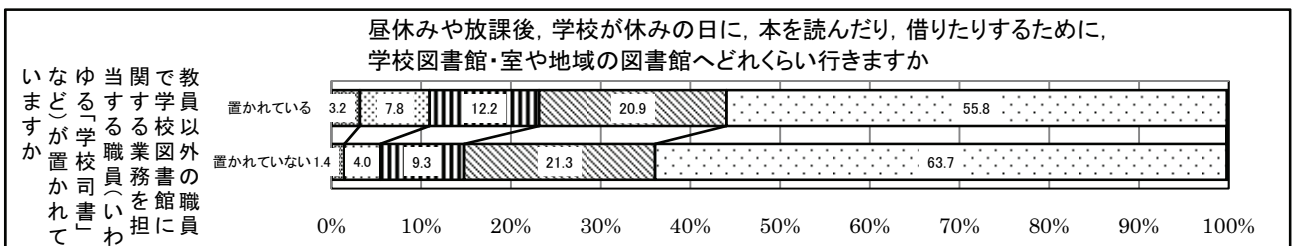
*質問 22(22)：教員以外の職員で学校図書館に関する業務を担当する職員(いわゆる「学校司書」など)が置かれていますか **新規**

*児童生徒質問紙 20(20)：昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか **新規**

【小学校】



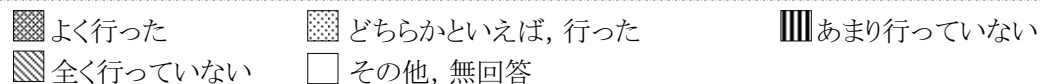
【中学校】



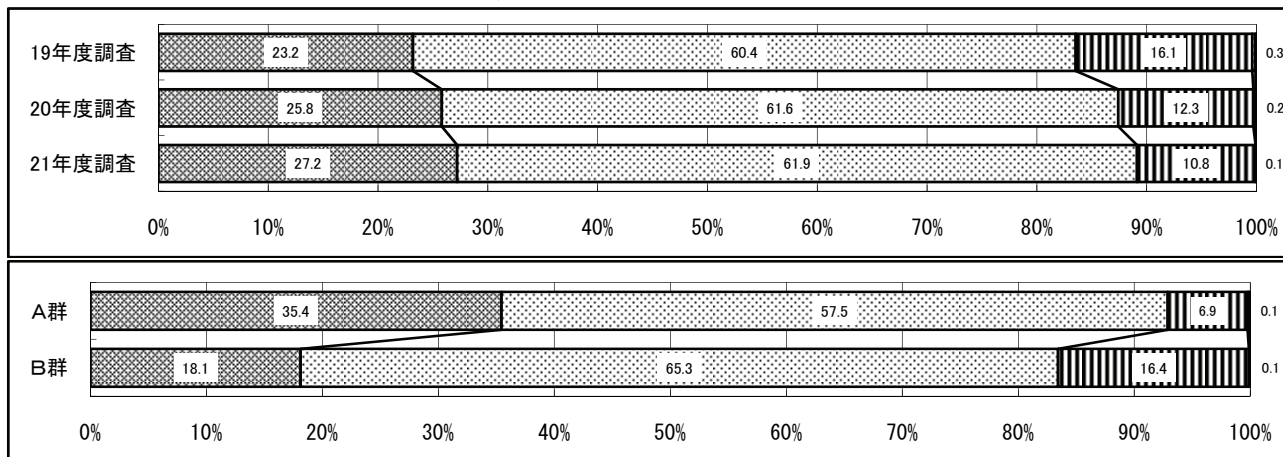
※ () 内の質問番号は、中学校調査の質問番号である。

国語科の指導方法

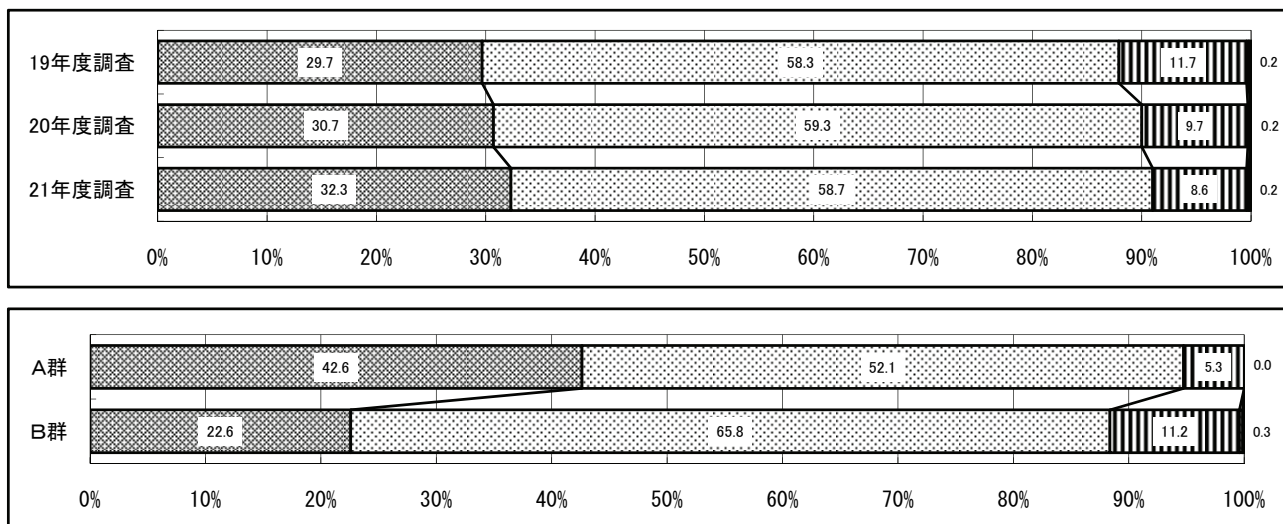
- 国語の指導として、書く習慣を身に付ける授業を行った学校の割合は、小学校が約89%、中学校が約91%と、ともに増加傾向がうかがえる。
- 平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った割合が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問 59：国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか

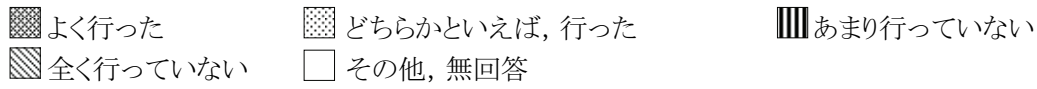


【中学校】*質問 59：国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか

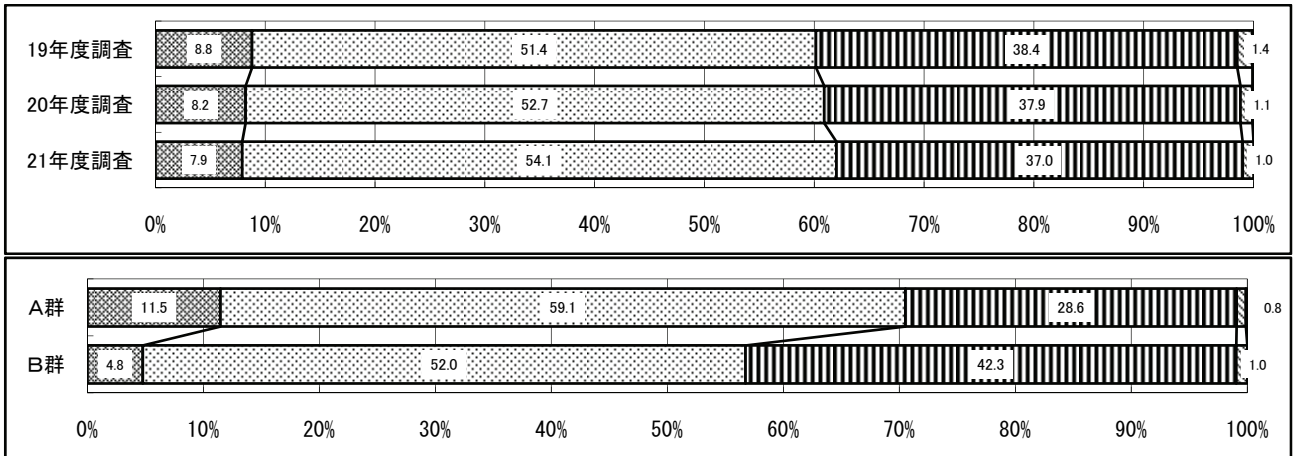


算数・数学科の指導方法

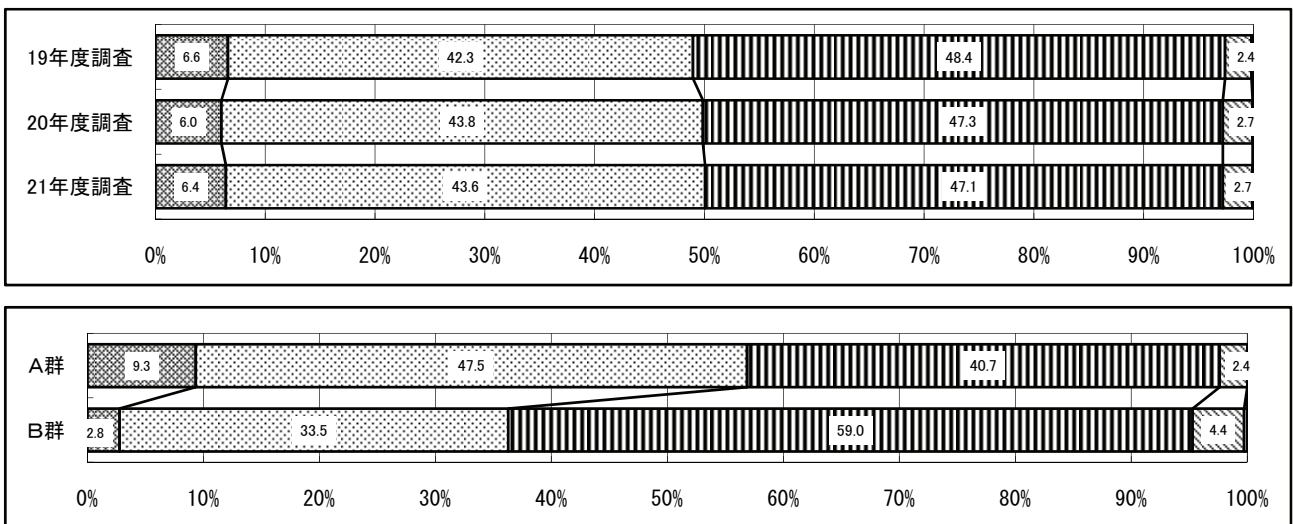
- 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小学校が約62%、中学校が約50%と、大きな変化は見られない。
- 平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った割合が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問 65：算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

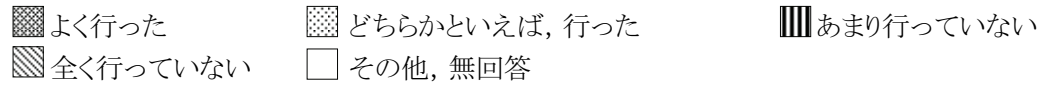


【中学校】*質問 64：数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

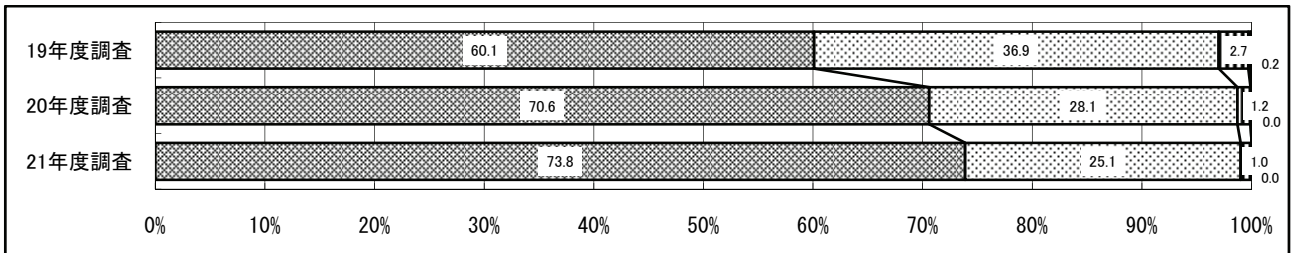


家庭学習・家庭との連携

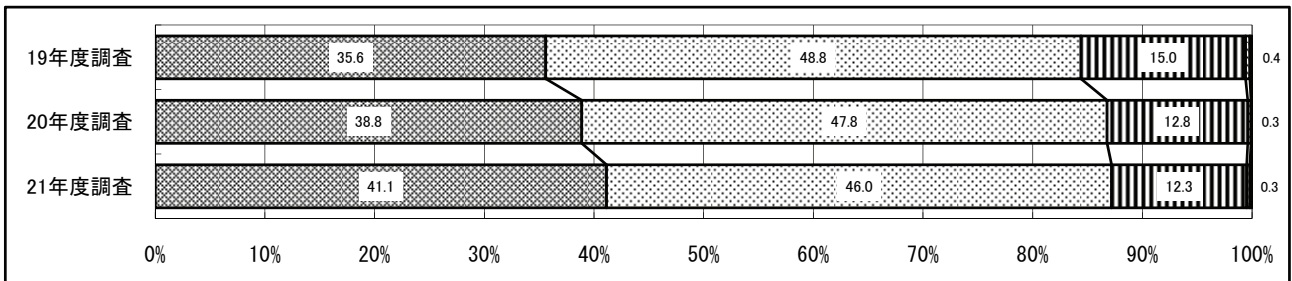
○国語・算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）をよく与えた学校の割合に、増加傾向がうかがえる。



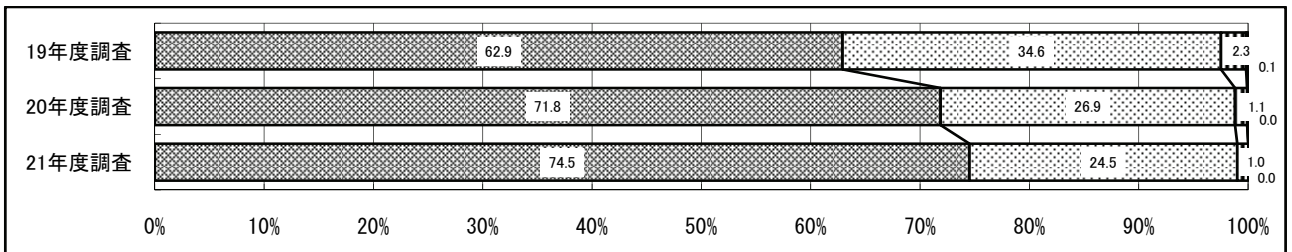
【小学校】*質問 76：国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



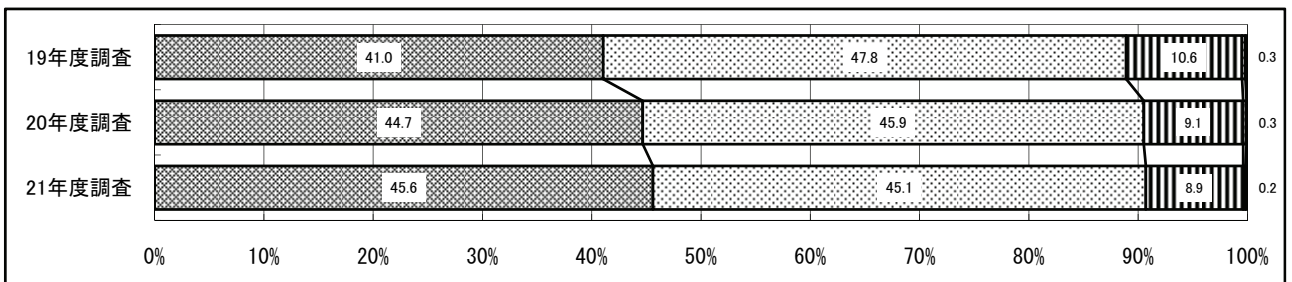
【中学校】*質問 73：国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



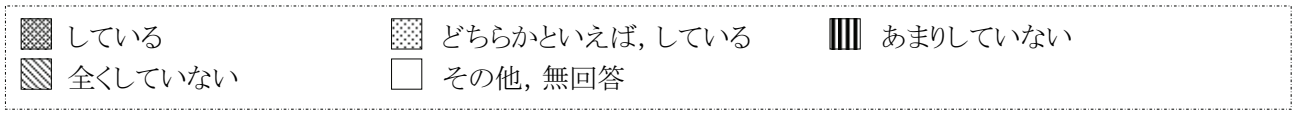
【小学校】*質問 80：算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



【中学校】*質問 77：数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

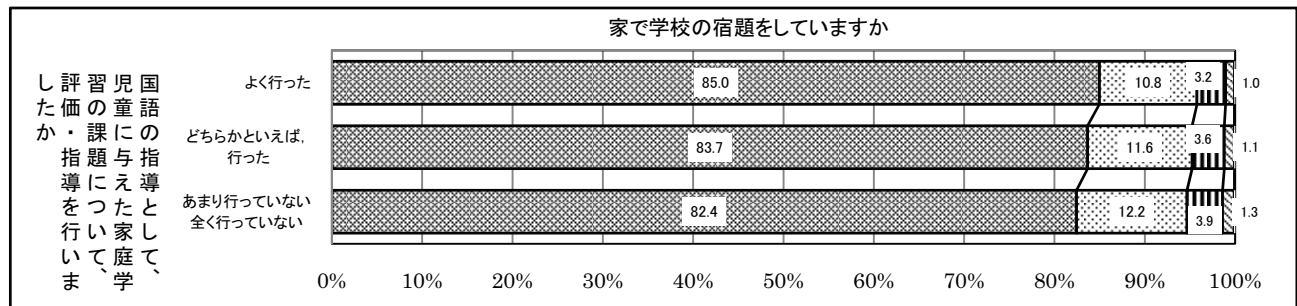


○国語・算数（数学）の指導として、家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の方が、家で学校の宿題をしている児童生徒の割合が高い傾向が見られる。

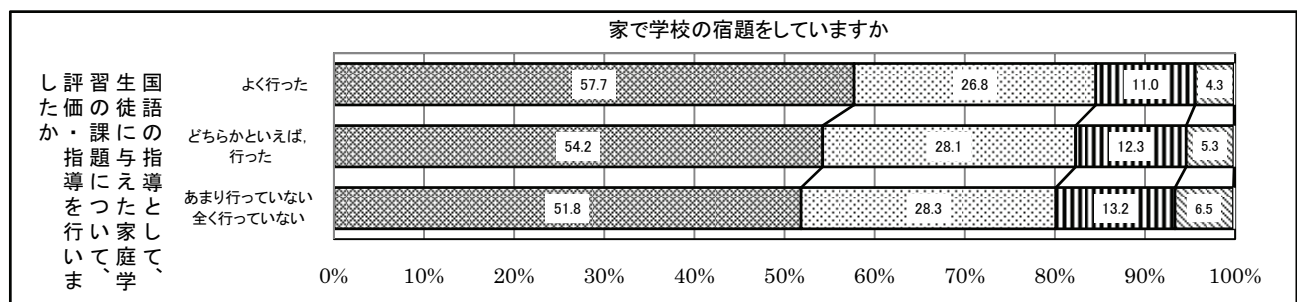


*質問 79(76)：国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか
 *児童生徒質問紙調査質問 27：家で学校の宿題をしていますか

【小学校】

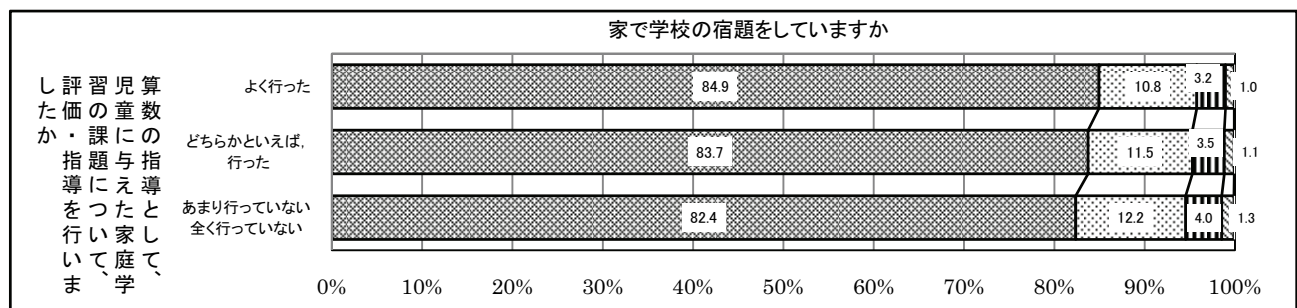


【中学校】

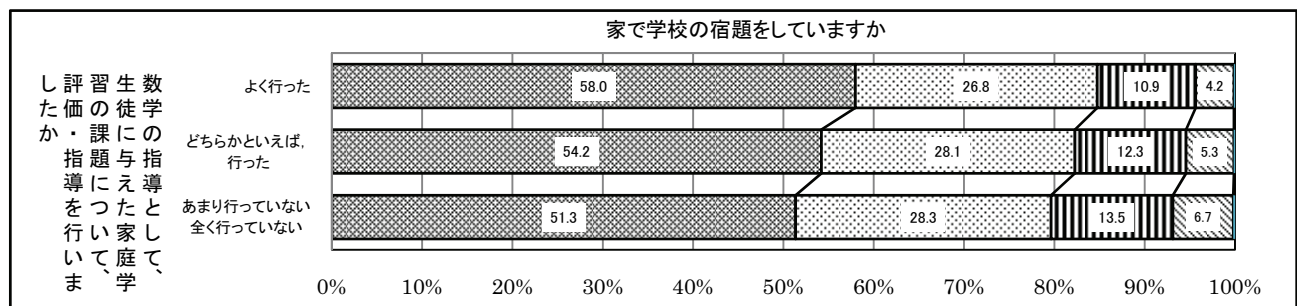


*質問 83(80)：算数(数学)の指導として、児童生徒が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか
 *児童生徒質問紙調査質問 27：家で学校の宿題をしていますか

【小学校】



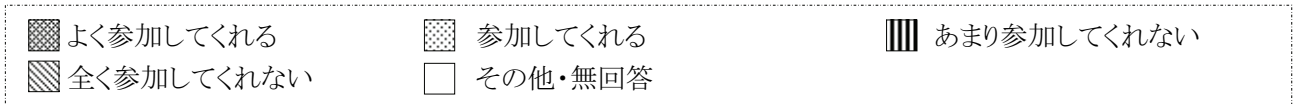
【中学校】



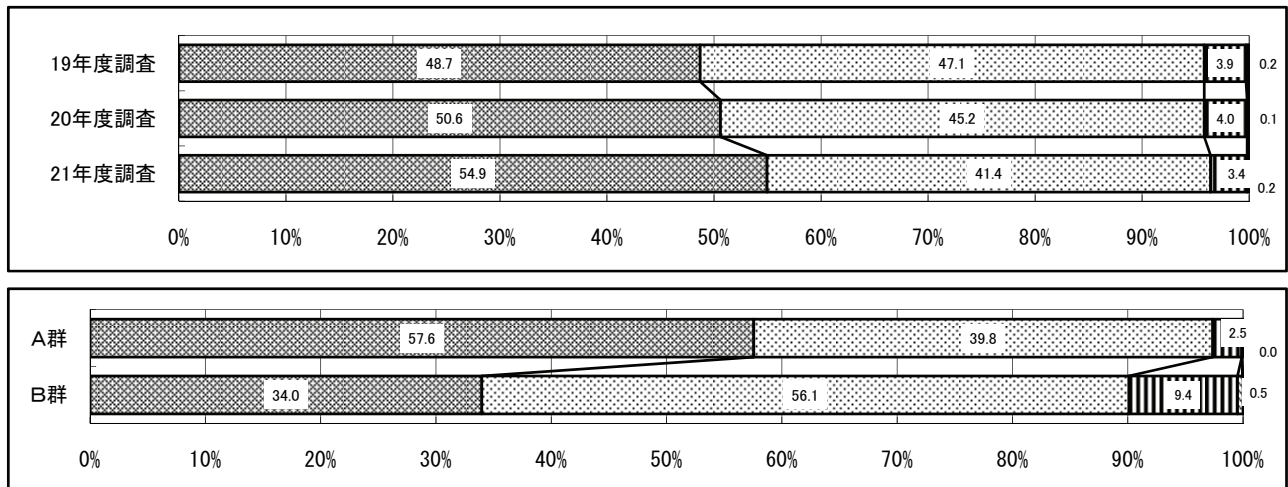
地域の人材の活用・施設等の活用・開かれた学校

○PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとしてよく参加してくれると回答している学校の割合は、小学校は約55%、中学校は約46%と、増加傾向がうかがえる。

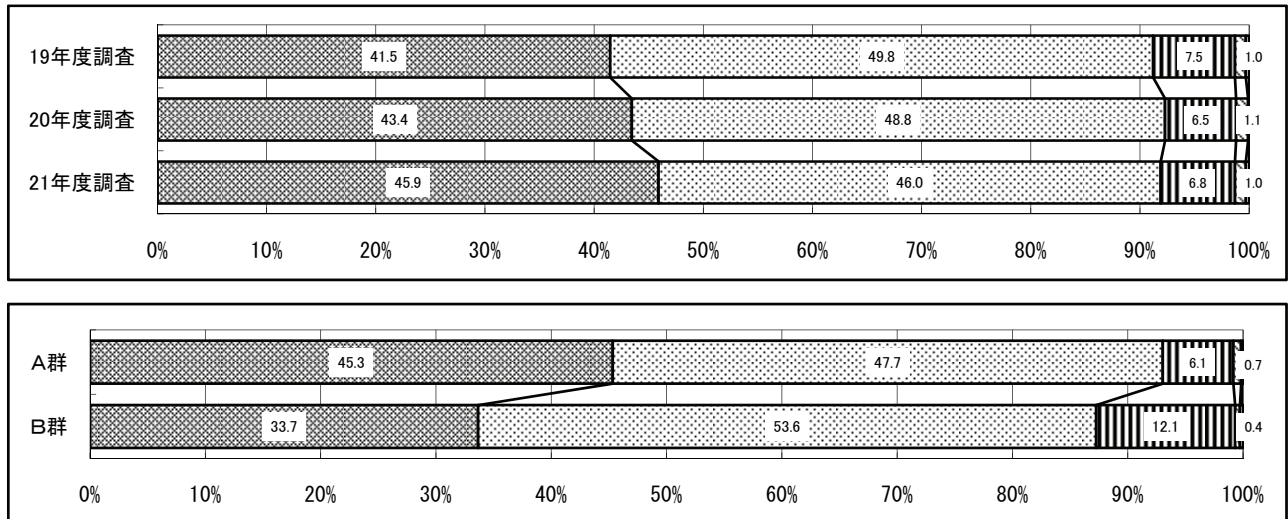
○平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、PTAや地域の方が学校の諸活動に参加してくれると回答している割合が高い傾向が見られる。



【小学校】*質問73：PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか



【中学校】*質問71：PTAや地域の方が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

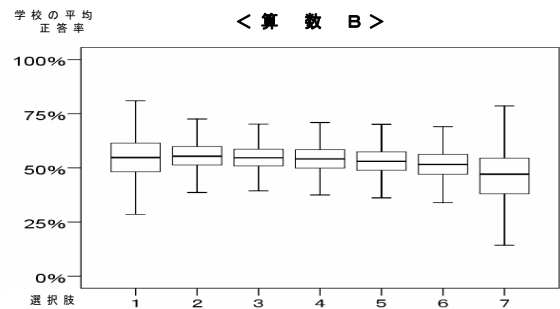
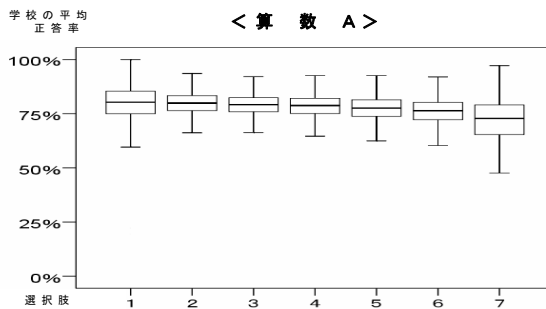
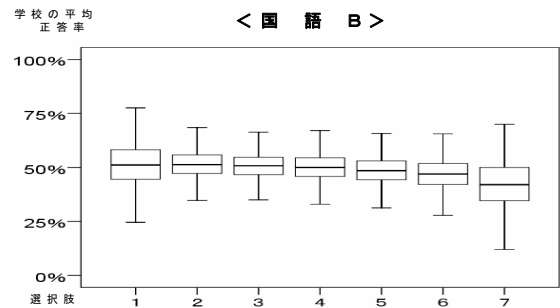
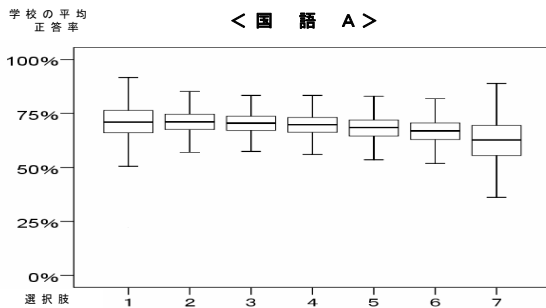


就学援助

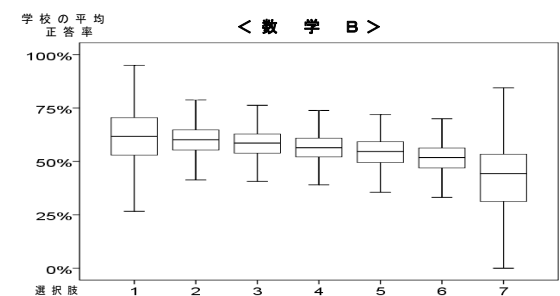
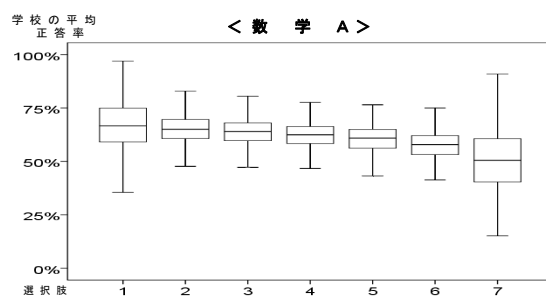
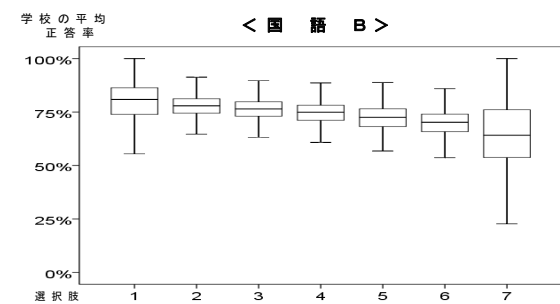
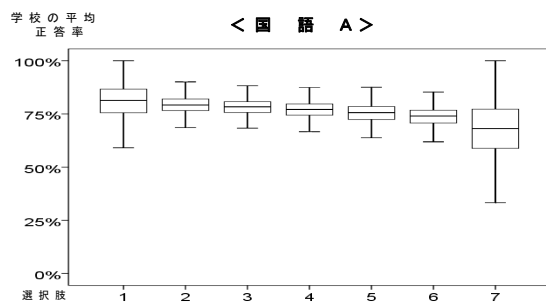
- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られる。
- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校は、各学校の平均正答率のばらつきが大きく、その中には、平均正答率が高い学校も存在する。

選択肢1 在籍していない 選択肢2 5%未満 選択肢3 5%以上, 10%未満
 選択肢4 10%以上, 20%未満 選択肢5 20%以上, 30%未満 選択肢6 30%以上, 50%未満
 選択肢7 50%以上

【小学校】*質問 14：第6学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合は、どれくらいですか



【中学校】*質問 14：第3学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒の割合は、どれくらいですか

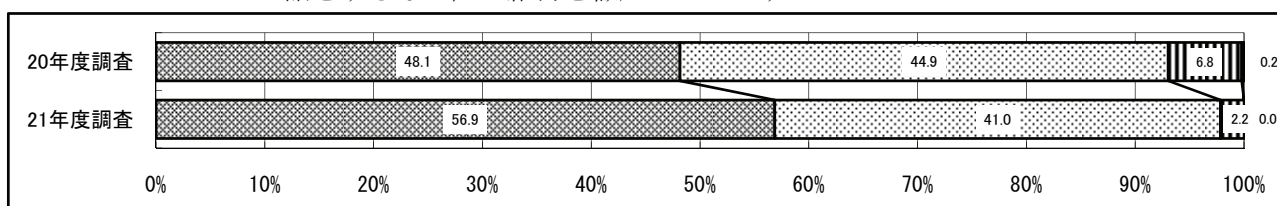


D層の児童生徒の割合が減少した学校

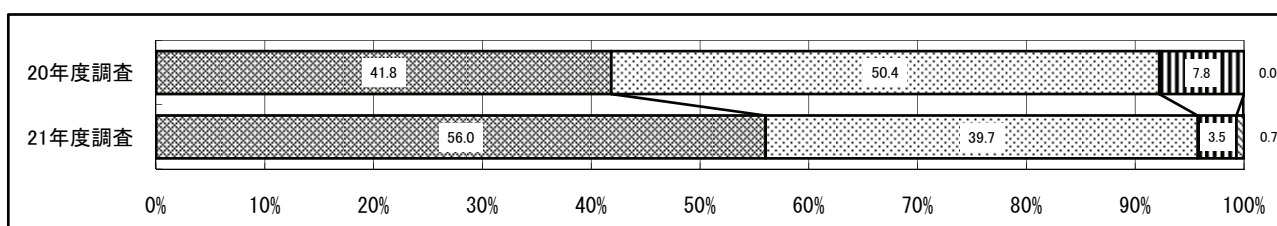
○20年度と比べD層（※）の児童生徒の割合が、全ての教科において、小学校調査においては10ポイント以上、中学校調査においては5ポイント以上減少した学校では、私語をしないなど学習規律の維持を徹底している、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたと回答している割合が増加している。

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行っていない
 全く行っていない
 その他、無回答

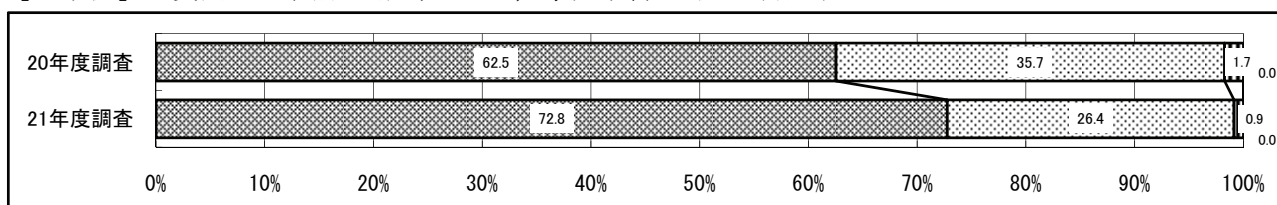
【小学校】*設問 31: 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底していますか



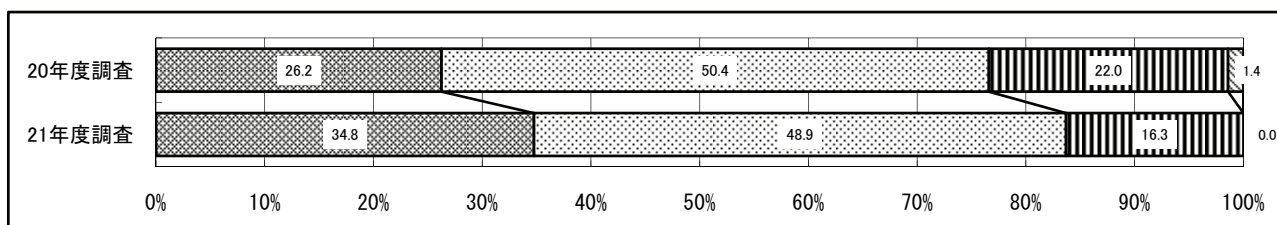
【中学校】*設問 31: 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底していますか



【小学校】*質問 76: 国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



【中学校】*設問 73: 国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



※各層は児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っており、上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。なお、正答数が同じ場合は、上位の層に含む。

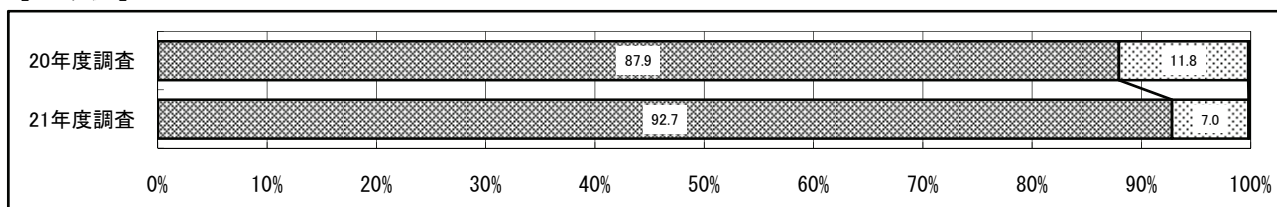
※D層の比較のグラフにおいては、30人以上の児童生徒が調査を実施した公立学校（特別支援学校を除く）について分析している。

全国学力・学習状況調査の活用

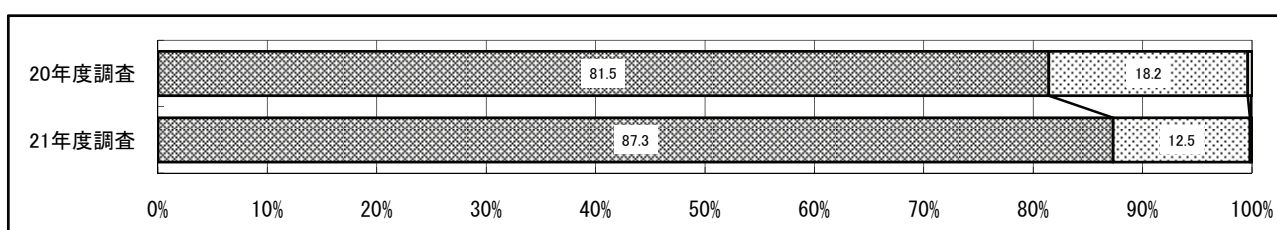
○全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校は、小学校は約 93%、中学校は約 87%と、20 年度と比べ高くなっている。

■ はい ■ いいえ □ その他、無回答

*質問 45：平成 20 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか
【小学校】



【中学校】



○全国学力・学習状況調査を活用した（指導計画に反映、具体的な教育指導の改善に活用、調査対象学年・教科だけでなく学校全体で活用、調査問題を授業の中で活用、指導計画等の検討にあたり、調査結果を参考にした）学校の割合は、小学校は約 98%、中学校は約 95%であり、20 年度と比べやや高くなっている。

*質問 44：平成 20 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか

*質問 45：平成 20 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか

*質問 46：平成 20 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用しましたか

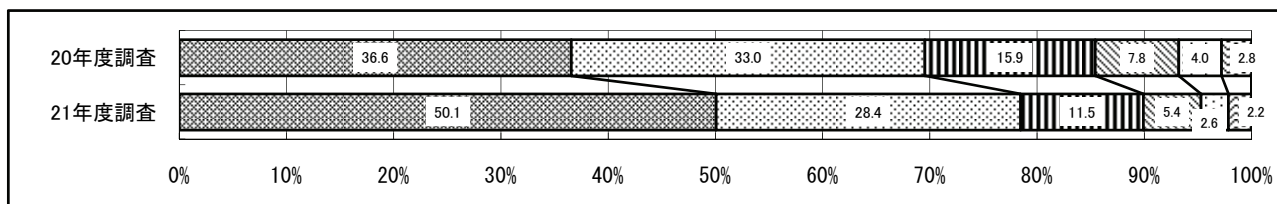
*質問 47：平成 20 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成 20 年度において、第6学年や他学年の授業の中で活用しましたか

*質問 48：学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成 20 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか

上記の質問に対して

■ 全て肯定的な回答の学校 ■ 肯定的な回答が4つの学校 ■ 肯定的な回答が3つの学校
■ 肯定的な回答が2つの学校 ■ 肯定的な回答が1つの学校 ■ 全く肯定的な回答がない学校

【小学校】



【中学校】

